令和６年度事業報告書

学校法人 帝京科学大学

１．法人の概要
（１）基本情報 1
（２）建学の精神 1
（３）沿革 1
（４）設置する学校 4
（５）学生数 5
（６）収容定員充足率 6
（７）役員の概要 6
（８）評議員の概要 6
（９）役員賠償責任保険契約の状況 7
（10）教職員の概要 7
（11）設置校等の状況 8
２．事業の概要
（１）中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況 12
（２）施設・設備における主な事業 13
（３）主な教育・研究の概要 14
３．財務の概要
（１）学校法人会計の特徴と企業会計の違い 51
（２）経年比較 53
（３）経営上の成果と課題、今後の方針 57

1．法人の概要

（1）基本情報

①法人の名称　　学校法人帝京科学大学

②主たる事務所　　東京都足立区千住桜木二丁目2番1号
℡　03-6910-1010　fax　03-6910-3800
ホームページ　https://www.ntu.ac.jp/

（2）建学の精神

人類の将来を正しく見据え、生命の尊厳を深く学び、自然と人間の共生に貢献できる人材を育成し、持続可能な社会の発展に寄与する。

（3）学校法人の沿革

年　月	沿　革
昭和38年 4月	学校法人帝京第一学園において帝京第五高等学校（普通科及び自動車科、建築科、機械科の3工業科）設置
昭和40年 4月	帝京第五高等学校商業科設置
昭和41年 3月	学校法人愛媛冲永学園設立
4月	愛媛帝京幼稚園設置
昭和42年 4月	帝京第五高等学校衛生看護科設置
昭和48年 3月	帝京第五高等学校を学校法人帝京第一学園から学校法人愛媛冲永学園に設置者変更
昭和55年 4月	帝京第五高等学校冨士分校設置
昭和58年 4月	帝京第五高等学校冨士分校を帝京第五高等学校冨士校とする 冨士中学校設置
昭和62年 2月	法人名を西東京学園と改称
平成元年12月	寄附行為の変更認可、文部大臣所轄学校法人となる 西東京科学大学設置認可 理工学部　電子・情報科学科、バイオサイエンス学科、物質工学科、経営工学科
平成 2年 4月	西東京科学大学開設
平成 6年 3月	西東京科学大学大学院設置認可、寄附行為の変更認可 理工学研究科　修士課程　バイオサイエンス専攻、マテリアルズ専攻、経営情報システム専攻
4月	西東京科学大学大学院開設
12月	西東京科学大学大学院　理工学研究科　博士（後期）課程設置承認　先端科学技術専攻
平成 8年 4月	法人名を学校法人帝京科学大学と改称

	大学名を帝京科学大学と改称
平成 9 年 4 月	経営工学科をマネジメントシステム学科に名称変更
平成 10 年 4 月	物質工学科を環境マテリアル学科に名称変更
	帝京第五高等学校　工業科（機械科、建築科、自動車科)、商業科を総合学科に改編
平成 12 年 4 月	帝京第五高等学校　工業科（機械科、建築科、自動車科)、商業科を廃止
	電子・情報科学科をメディアサイエンス学科に名称変更
平成 13 年 4 月	帝京第五高等学校　衛生看護専攻科設置
平成 14 年 4 月	帝京科学大学アニマルサイエンス学科設置
平成 15 年 4 月	マテリアルズ専攻を環境マテリアル専攻に名称変更
平成 16 年 4 月	帝京第五高等学校　看護科本科・専攻科（5 年一貫教育）設置、衛生看護科の募集を停止
平成 17 年 4 月	メディアサイエンス学科をメディア情報システム学科、環境マテリアル学科を環境科学科に名称変更
	マネジメントシステム学科廃止
	経営情報システム専攻をメディア情報システム専攻に名称変更
	アニマルサイエンス専攻設置
平成 18 年 3 月	帝京医療福祉専門学校の設置者の財団法人帝京山梨教育福祉振興会から学校法人帝京科学大学への変更に係る寄付行為変更認可
平成 19 年 4 月	理工学部を生命環境学部に名称変更
	医療科学部リハビリテーション学科設置
平成 20 年 4 月	生命環境学部生命科学科、医療科学部作業療法学科及びこども学部こども学科設置
	医療科学部リハビリテーション学科を理学療法学科に名称変更
平成 21 年 4 月	医療科学部柔道整復学科設置
平成 22 年 4 月	大学を 3 キャンパス体制とした。(千住キャンパス，上野原キャンパス，山梨市キャンパス)
	医療科学部東京理学療法学科、東京柔道整復学科及びこども学部児童教育学科設置
	総合教育センター設置
	生命環境学部環境科学科を自然環境学科に名称変更
	帝京第五高等学科冨士校の廃止及び帝京冨士高等学校の設置
	冨士中学校を帝京冨士中学校に名称変更
平成 22 年 8 月	千住キャンパス 3 号館建物完成
	千住キャンパス 4 号館（クラブハウス）建物完成
	千住キャンパスグラウンド建物完成
平成 22 年 10 月	千住キャンパス 5 号館（さくら寮）建物完成
平成 23 年 4 月	帝京医療福祉専門学校を帝京福祉専門学校に名称変更

平成 24 年 4 月	医療科学部看護学科設置
平成 27 年 4 月	生命環境学部メディア情報システム学科及びバイオサイエンス学科を廃止 帝京福祉専門学校に実務者研修コース設置
平成 28 年 4 月	医療科学部医療福祉学科、こども学部学校教育学科及び幼児保育学科設置 児童教育学科の募集を停止
平成 29 年 4 月	千住キャンパス 7 号館建物完成 こども学部を教育人間科学部に名称変更
平成 30 年 4 月	医療科学研究科　修士課程　総合リハビリテーション学専攻設置 上野原キャンパスから東京西キャンパスにキャンパス名変更 医学教育センターを設置
平成 30 年 8 月	千住キャンパス 8 号館建物完成
平成 31 年 4 月	学校教育学科に国際英語コースを設置 柔道整復学科の東京西キャンパスへの完全移転に伴い、山梨市キャンパスの利用を停止 帝京冨士中学校・高等学校 募集停止
令和元年 12 月	理工学研究科　メディア情報システム専攻募集を停止
令和 2 年　3 月	理工学研究科　メディア情報システム専攻廃止
令和 2 年　4 月	帝京科学大学千住桜木保育園を設置 医療科学研究科　看護学専攻・柔道整復学健康ケア専攻（修士課程)、 総合リハビリテーション学専攻（博士課程）設置
令和 3 年　3 月	帝京冨士中学校・高等学校廃止
令和 3 年　4 月	教育人間科学部児童教育学科廃止
令和 5 年　4 月	学校教育学科国際英語コースを中高英語コースに名称変更
令和 6 年　4 月	医療科学研究科　博士課程　総合リハビリテーション学専攻を医療科学専攻に専攻名変更

（4）設置する学校・学部・学科等（令和6年4月1日現在）

帝京科学大学	大学院	理工学研究科
		医療科学研究科
	生命環境学部	自然環境学科
		アニマルサイエンス学科
		生命科学科
	医療科学部	理学療法学科
		作業療法学科
		柔道整復学科
		東京理学療法学科
		東京柔道整復学科
		看護学科
		医療福祉学科
	教育人間科学部	こども学科
		幼児保育学科
		学校教育学科
帝京福祉専門学校		介護福祉科
帝京第五高等学校	全日制課程	普通科
		総合学科
		看護科
	通信制課程	普通科

愛媛帝京幼稚園

帝京科学大学千住桜木保育園

（５）学校・学部・学科等の学生数の状況（令和６年５月１日現在）

学校名	学部名等	学科名等	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
帝京科学大学	大学院理工学研究科	博士課程	8	1	24	4
		修士課程	45	11	90	24
	大学院医療科学研究科	博士課程	2	3	6	8
		修士課程	9	5	18	12
	大学院　計		64	20	138	48
	生命環境学部	自然環境学科	100	92	410	333
		アニマルサイエンス学科	290	330	1,170	1,311
		生命科学科	100	96	420	357
	生命環境学部　計		490	518	2,000	2,001
	医療科学部	理学療法学科	80	67	320	280
		作業療法学科	40	17	160	75
		柔道整復学科	30	17	120	101
		東京理学療法学科	80	98	320	357
		東京柔道整復学科	90	96	360	355
		看護学科	80	95	320	357
		医療福祉学科	50	36	220	188
	医療科学部　計		450	426	1,820	1,713
	教育人間科学部	こども学科	50	19	210	93
		幼児保育学科	100	52	400	310
		学校教育学科	130	134	520	505
	教育人間科学部　計		280	205	1,130	908
	帝京科学大学　計		1,284	1,169	5,088	4,670
帝京福祉専門学校		介護福祉科	40	34	80	55
帝京第五高等学校	全日制課程	普通科	40	28	120	55
		総合学科	120	43	360	144
		看護科	40	20	200	60
	通信制課程	普通科	80	14	240	14
	帝京第五高等学校　計		280	105	920	273
愛媛帝京幼稚園			68	39	200	167
帝京科学大学千住桜木保育園				18	132	99

（6）収容定員充足率（令和6年5月1日現在）

学校名等	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
帝京科学大学大学院	0.29	0.28	0.29	0.29	0.35
帝京科学大学	0.98	0.96	0.97	0.96	0.91
帝京福祉専門学校	0.61	0.66	0.71	0.65	0.69
帝京第五高等学校	0.56	0.37	0.40	0.51	0.46
愛媛帝京幼稚園	0.95	0.82	0.89	0.76	0.84
帝京科学大学千住桜木保育園	0.30	0.44	0.64	0.76	0.75

（7）役員の概要（令和6年5月1日現在）

1．定員数

役職名	定員数	現員数
理　事	6～10	6
監　事	2～3	2

2．役員の氏名

	役職名	氏　名	常勤・非常勤
1	理事長	冲 永 荘 八	常　勤
2	理　事	冲 永 隆 子	常　勤
3	理　事	津 田 茂 子	常　勤
4	理　事	永 沼　　充	常　勤
5	理　事	田 中 悟 道	非常勤
6	理　事	小 池 和 男	非常勤
7	監　事	前 田 克 彦	常　勤
8	監　事	後 藤 邦 彦	非常勤

（8）評議員の概要

1．定員数（令和6年5月1日現在）

役職名	定員数	現員数
評議員	14～21	14

２．評議員の氏名

	役職名	氏　名
1	評議員	冲 永 荘 八
2	評議員	冲 永 隆 子
3	評議員	永 沼　　充
4	評議員	田 中 悟 道
5	評議員	小 池 和 男
6	評議員	津 田 茂 子
7	評議員	岩 井 孝 次
8	評議員	釘 田 強 志
9	評議員	冲永 惠津子
１０	評議員	豊 嶋 明 寛
１１	評議員	大日向　　浩
１２	評議員	二 神 弘 子
１３	評議員	野 村 昭 彦
１４	評議員	船 坂 則 夫

（９）役員賠償責任保険契約の状況

本学は私立学校法第 40 条の 5 で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 118 条の 2・第 118 条の 3 に規定する役員賠償保険契約を保険会社との間で締結し、当該保険により被保険者が負担することになる損害を填補することとしております。

当該役員賠償保険契約の被保険者は本学の理事、監事、評議員、管理職職員が含まれており、すべての被保険者について、その保険料を全額本学が負担しております。

（10）教職員の概要（令和６年５月１日現在）

１．教職員数

	教員			職員			総計
	専任	非常勤	計	専任	非常勤	計	
帝京科学大学	235	503	738	97	36	133	871
帝京福祉専門学校	5	17	38	1	2	3	41
帝京第五高等学校	32	23	55	5	21	26	81
愛媛帝京幼稚園	10	17	27	2	14	16	43
帝京科学大学千住桜木保育園	18	7	24	1	6	7	31

２．年齢別教員数　※非常勤講師を除く

	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	総計
帝京科学大学	1	31	63	84	49	7	227
帝京福祉専門学校	0	0	0	3	2	0	5
帝京第五高等学校	3	8	6	13	2	0	32
愛媛帝京幼稚園	4	3	1	2	0	0	10
帝京科学大学千住桜木保育園	9	1	4	3	1	0	18

（１１）設置校等の状況

帝京福祉専門学校

○昭和 63 年に介護福祉士養成施設として開校した本学の特色は次のとおりです。

- 2 年間の学習で介護福祉士の国家試験受験資格が得られます。
- 先生と生徒の距離が短く、少人数制で家庭的な雰囲気の中、学生一人ひとりへの細かな関わりを大切にしています。
- 机上の学習だけでなく、校内外の実習・演習にも力を入れています。
- 帝京科学大学の医療福祉学科への編入ができます。
- 平成 31 年 1 月に新校舎に移転したばかり、新山梨市駅の乗降口から玄関まで 30m、最新の施設、設備で学べます。

○実務者研修コース受講者数（令和 6 年 3 月 31 日）

	実務者①②コース	合　計
男	2	2
女	4	4
計	6	6

○主な行事（令和 6 年度）

入学式	4 月 5 日
前期授業	4 月 3 日～8 月 11 日
初任者研修コース	未開講
創立記念日	6 月 29 日
実務者研修①コース	未開校
夏期休業	8 月 12 日～9 月 4 日
後期授業	9 月 5 日～2 月 7 日
学園祭	9 月 20 日～ 9 月 21 日
冬期休業	12 月 23 日～1 月 7 日
実務者研修②コース	2 月 2 日～8 月 1 日（山梨県立就業支援センター研修生 6 名）
卒業式	3 月 7 日
春期休業	3 月 3 日～

帝京第五高等学校

〇昭和 38 年 4 月、建学の精神「力むれば必ず達す」の下、実社会に貢献できる誠実で責任感あふれる人材の育成を目指し全日制高等学校として愛媛県大洲市新谷にて開校し、現在は普通科、看護科、総合学科を設置しています。令和元年 4 月より、普通科（特進コース）は、同市柚木にあった帝京冨士高等学校と合併し、普通科特進冨士コースとして生まれ変わり、特進冨士コースでは、特進系（2 年次から特進文系・特進理系）とスポーツ系に分かれたコース設置を行い、令和 5 年 4 月には総合学科トライコースを新設し、学校に登校できない、もしくは、登校に不安を感じている生徒一人ひとりの居場所づくりをしています。

令和 7 年 4 月より、通信制課程（狭域）を開校して、さまざまな生徒の受け入れができる体制の確立と愛媛県内初の全日制課程と通信制課程の相互連携が図れるシステムを導入することで、より斬新的な取り組みを図り、少子化を迎えることに対して、生徒数確保に努めております。

〇主な行事（令和 6 年度）

入学式	4 月 6 日
開校記念日	4 月 15 日
帝京祭	6 月 21 日
夏休み	7 月 19 日～8 月 25 日
体験入学	8 月 4 日、8 月 24 日
体育祭	9 月 6 日
オープンスクール	9 月 28 日、10 月 26 日、11 月 16 日、12 月 14 日
修学旅行	11 月 26 日～11 月 29 日
載帽式	12 月 4 日
冬休み	12 月 20 日～1 月 7 日
卒業式	3 月 1 日
春休み	3 月 19 日～4 月 6 日

愛媛帝京幼稚園

〇昭和 41 年に愛媛県に開園した伝統ある幼稚園です。平成 25 年には新園舎に移転し、開園 50 周年を機に平成 28 年から認定こども園に移行しました。平成 29 年度には 0， 1 歳児の保育を開始し、保育所と幼稚園の機能がある施設となりました。

・　幼稚園・保育園両方の良さがあります。

　教育と保育が一体化した認定こども園への移行に伴い、土曜日を含む長時間保育が可能になったほか、子どもたちにしっかりと目が行き届くように十分な職員を配置しています。子育て家庭の多様なライフスタイルに対応しています。

・　安全対策で子どもを守ります。

　安心して子どもを預けていただけるように、万全の安全対策を取っています。避難訓練・防災指導を毎月行うほか、職員研修も実施しています。散歩に出たときは交通安全を学びます。

・　安心して食べられる自園給食

いのちや食べることの大切さを学ぶために、完全自園給食を提供しています。アレルギーによる事故を防止するために、あらかじめ入念な個別面談を実施し、対象となる子どもにはアレルギー物質の除去食や代替食を提供するなどの対応をしています。

・　充実した子育て支援

本園では、園児預かり、園庭開放、子育て相談窓口、保護者サークル活動、学童保育などの支援制度を設けています。

・　課内外教室で多様な経験をします

幼児期からできるだけ多彩な経験をすることで、子どもは自分の得意なことがわかってきます。本園では、教員のほかさまざまな専門家と協力して、課内教室や課外教室を開催しています。子どもたちの感性を養うとともに、才能の芽を育てていきます。

〇主な行事（令和６年度）

入園式	4 月 9 日
一学期	4 月 8 日 ～7 月 19 日
創立記念日	4 月 15 日
夜市ごっこ	7 月 10 日
夏休み	7 月 20 日 ～8 月 31 日
二学期	9 月 1 日～12 月 20 日
運動会	10 月 9 日
生活発表会	12 月 7 日（幼稚園部）、12 月 25 日（保育部）
冬休み	12 月 21 日～1 月 7 日
三学期	1 月 8 日 ～3 月 19 日
作品展	1 月 30 日（年長）、2 月 5 日（年中）、2 月 12 日（年少）
卒園式	3 月 15 日

帝京科学大学千住桜木保育園

・開設５年目を迎え、4 月は園児数 99 名でのスタートしましたが年度末には 107 名となり定員充足率は 81%となりました。

・開設時の保護者説明で大学との連携事業として、広いグランドを使用した活動を取り入れていくと説明していたところ、コロナの影響でなかなか実現できていませんでしたが、令和 6 年度は 4 号館のグランドを使用して「親子プレイデイ」を開催することができました。開園から続けてきた「柔道場で遊ぼう」の活動も保護者に見ていただけるよう保育参観の中に取り入れたり、日常の様子をインスタグラムに投稿したりして保護者の方に保育園での活動を知って頂き運営へのご理解、ご協力を深めてくることができました。

・その他大学連携事業では、今後の保育現場の担い手を育成する幼児保育学科の実習生受け入れに加え、日常的なボランティア活動の場として連携を深めてきました。また、夏のオープンキャンパスでは保育園の施設見学を実施し、園運営についての説明をする機会がもてて、学生にとって大学併設の保育園があることの魅力をお伝えすることができました。

・在籍している保護者に向けては、連絡帳アプリを使って本日の保育を配信することをスタートさせ、クラスの活動を写真や動画で紹介することもできるようになりました。

・少子化に加え、足立区全体で保育園の定員割れが大きな問題となっています。大学が運営している保育園という全国でも珍しい当園の特色を強みとし、今後もいろいろな学との連携を深め「選ばれる保育園」として地域に根ざしていきたいと思います。

〇主な行事（令和６年度）

入園式	４月１日
こどもの日の集い	５月２日
親子プレイデイ	５月 23 日
全園児歯科健診	６月 10 日
全園児内科健診	６月 26 日・10 月 31 日
年長児プラネタリウム鑑賞	６月 20 日
プール活動	６月 18 日～８月 30 日
夏まつり	７月 20 日
だいちの日	７月 26 日
防災引き取り訓練	９月 12 日
年長児バス遠足	９月 20 日
運動会	10 月 19 日
おじいちゃんおばあちゃんデー	10 月 26 日
年中児歩き遠足	11 月８日
保育発表会	12 月７日
クリスマスお楽しみ会	12 月２４日
新年のつどい	１月９日
節分のつどい	２月３日
令和６年度内定児健康診断	２月 14 日
ひな祭りのつどい	３月３日
おわかれかい	３月７日
卒園式	３月 13 日
入園説明会	３月１７日
年長児お別れ遠足	３月 18 日
進級式	３月 31 日

２．事業の概要

（１）中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

中期計画に盛り込まれた主な計画の進捗・達成状況は以下のとおりです。

- カリキュラム改正に伴う体系化とスリム化を実施（柔道整復・学校教育・理学・作業）。
- 数理・データサイエンス AI 教育プログラムの導入を実施した。（DS/AI 教育推進部会を開催）
- 教学マネジメント指針に指定されている内部質保証のためのデータの収集を行い、必要な評価基準と分析方法の確認と実施も行った。卒業生アンケートについては十分な数字に近づいており、今後はデータの質と活用促進が課題となってくる。
- 部局長会の下に三つの方針検証専門部会を設置し、三つの方針について見直しを行っている。令和 6 年度においては各学科の三つの方針の確認作業を行った。
- 国家試験等の合格率アップのための支援体制の充実に取り組んでいる。愛玩動物看護師及び臨床工学技士の支援として学習支援教員の配置を行った。また、国家試験対策 e ラーニングの導入により成績管理と学修成果を可視化した。
- 授業改善アンケートや学生満足度調査などの積極的なデータ分析を行い、学生生活の向上に努めている。
- 大学院入試における在学生を対象にした情報提供を積極的に行った（6 月・8 月）。
- リメディカル教育の一環として読解力向上のための学習システムを一部の学科で導入した。
- 総合学生支援センターにおいて困りごと調査を実施し、関係部署との情報共有を行っている。
- 学生への経済的支援の充実として、各種奨学金の申し込み手続きを簡略化できるクラウド型システムの導入に取り組んだ。
- 学生の課外活動支援の充実として、千住キャンパス 7 号館グラウンドの人工芝張替工事を実施した。
- キャリア支援イベントの充実として就職エージェントに関するガイダンスを 4 回実施。
- 各学科による高等学校への出張授業を実施した。
- 外部に向けた大学活動の発信として、ホームページから各学科・センターの積極的な情報発信を継続している。
- 一般選抜入試における記述式問題の導入を行った。
- 専門教育機関として、近隣自治体と連携した新たな取り組みとして足立区内の高等学校との高大連携事業を実施した。
- 足立区との協定により千住キャンパスでの地域防災訓練を実施した。
- オーストラリア・タイの大学との大学間交流協定（MOU）の締結を行った。
- 帝京第五高等学校において、新規の部活動の立ち上げを行った。
- 帝京福祉専門学校において、個別対応でのグループ学習等の実施により国家試験合格率 100％を達成した。
- 愛媛帝京幼稚園において、公式ブログ・SNS 等を活用し積極的な広報活動を実施した。

（２）施設・設備における主な事業（事業経費５００万円以上）

部　　門	事　　項
帝京科学大学	千住①本館空調機更新工事
	千住②グラウンド人工芝　張替え工事
	千住③事務シンクライアント　リプレイス
	千住④学務システム HW 更改
	千住⑤PC 教室設備リース・保守料（東京西共有）
	千住⑥MM 教室設備リース・保守料
	千住⑦教室･会議室 AV 機器改修費
	千住⑧本館, 7 号館受水槽 F Mバルブ交換、塗装工事
	千住⑨フジテックエレベーター部品交換
	千住⑩喫煙所設置工事(7 号館)
	千住⑪2 号館隣接地の購入
	千住⑫本館,2 号館,3 号館教室 AV 機器改修工事
	千住⑬本館 1508 教室 AV 機器改修工事
	千住⑭マルチマイクロプレートリーダー（生命）
	千住⑮クリオスタット(凍結薄切標本作成装置)(アニマル)
	千住⑯三次元動作解析装置　買替え（東京理学）
	東京西①構内道路整備工事　路床浸透排水管敷設・路面整備
	東京西②本館受水槽更新工事
	東京西③実験排水処理施設整備
	東京西④図書館棟 2 階床整備　タイルカーペット更新
	東京西⑤本館棟遮熱対策工事　屋上遮熱塗装
	東京西⑥野球場建築費（ﾌﾞﾙﾍﾟﾝ,ﾊﾞｯｸｽｸﾘｰﾝ,野球用具）
	東京西⑦トレッドミル(圧分布式ﾌｫｰｽﾌﾟﾚｰﾄ) 買替え（理学）
	東京西⑧運動解析装置　買替え（理学）
	東京西⑨磁気刺激装置　買替え（理学）
	東京西⑩床反力計　買替え（理学/作業）
帝京福祉専門学校	－
帝京第五高等学校	五校①情報室デスクトップ PC およびソフトウェア更新 41 台
愛媛帝京幼稚園	－
帝京科学大学千住桜木保育園	－

（3）主な教育・研究の概要

1　大学全体の３ポリシー

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

帝京科学大学が定める各学科の卒業要件単位以上を修得し、更に学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身についていると認められる者に学士学位を授与する。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

帝京科学大学の建学の精神に基づき、各学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、各学科において、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を編成、実施し、教育評価を行う。

・教育内容（授業科目の編成方針等）
・教育方法（授業方法、専門科目と実習との整合性・連続性、国家試験対策、教員就職対策等）
・教育評価（到達度の確認、卒業論文の扱い等）

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学の建学の精神は「人類の将来を正しく見据え、生命の尊厳を深く学び、自然と人間の共生に貢献できる人材を育成し、持続可能な社会の発展に寄与する。」という言葉で示されています。各学部学科では、その分野の高度な専門知識を教授するとともにこれを適切に運用する高い倫理的判断能力を涵養し、修得した学術に対する豊かな見識を社会に還元できる人材を育成することにより建学の精神を具現化します。

入学者に対しては、志望する学部学科で必要とする基礎的な知識のみならず、自然と人間の共生に関心を持ち、社会に貢献したいという使命感とそのために必要な学術を継続して修得したいというしなやかで強い意志を持った人を歓迎します。

2　一般教養のポリシー

カリキュラム・ポリシー

総合教育センターは、大学教育における専門課程とならぶ教育の両輪の一つとして、専門課程と協力・連携しながら全学的な立場で学生一人ひとりの自己形成と人間性の養成に応える教育を進める。あわせて、初年次教育を充実させると共に、全学年を通した学士課程教育に求められる社会基礎能力、自己実現能力、組織的行動能力を養うことで、豊かな知性と感性と意欲を兼ね備えた、社会の一員として活躍できる学生を育てる。

自然系教養科目

（教育内容）

自然系科目の基礎を学び直し専門課程の学修に役立てることを目指す。具体的には、数学、物

理学、化学、生物学における、中学・高校レベルの復習も含めた大学初年次レベルにかけての内容を教授する。数学では、中学・高校数学の復習（数学の基礎)、推測統計学の基礎（統計学入門)、微分積分学・線形代数学（数学Ⅰ、Ⅱ）を学び、数理的な考え方を理解してもらう。物理学では、ニュートン力学や古典電磁気学の基礎を学習し、科学的方法とは何か理解する。化学では、物質の成り立ちと性質、そして、化学変化を理解するのに必要な化学の基礎を学ぶ。生物学では、ヒトの体や細胞のしくみを学ぶことで、「いのち」についての教養を身につけ、専門課程へのステップとする。

（教育方法）

講義形式の中に問題演習の時間を設けて理解が確実になるよう努める。また一部の科目では実験形式で行うことにより理解や関心を高めることを目指す。

（教育評価）

授業への出席率が高い学生は総じて理解度も高い。定期試験に加えて毎回の授業時の課題の提出状況を考慮する科目もある。また実験では出席しレポートを提出することを非常に重視する。

人文・社会・複合系教養科目

（教育内容）

人文・社会・複合系教養科目では、人類がこれまで辿ってきた人文・社会科学および複合的学問の歩みとその展開を学修者の日常的な経験や問題関心と関連づけながら教授する。そのことによって、人文・社会科学および複合的学問の考え方や成果が私たちの生きている社会や文化や歴史的現実の中で果たしている役割や意義について根源的かつ総合的に理解する学修者を養成する。

（教育方法）

人文・社会科学および複合的学問の題材を用いて、学問的コミュニケーションの作法としての「読み・考え・書き・伝える」といった学修活動の基幹能力の養成を促す多様な教育方法を重視する。そのことによって、学修者一人ひとりの学修スタイルや関心を育てつつ、生涯を通じて有用な根本的・教養的資源と自身の思考を適切に表現する言語運用能力の修得に努めさせる。

（教育評価）

成績評価については、各科目のシラバスに定めた到達目標に記載した内容を学修者が理解できているかという点を基準とする。具体的な評価方法については、各科目のシラバスに定めた定期試験、レポート、授業回毎のリアクションペーパー、ポートフォリオなどによって、多角的かつ総合的に評価を行う。

情報系コミュニケーション科目

（教育内容）

情報系コミュニケーション科目は、情報処理Ⅰと情報処理Ⅱから構成される。

情報処理Ⅰでは、まず情報モラルおよび情報セキュリティについて学習した後、実際にパソコンを用いて、インターネット，ワープロソフト，表計算ソフトおよびプレゼンテーションソフトについての実習を行い、これらの基本的な使い方をマスターする。

情報処理Ⅱでは、情報の検索および運用，数値分析，データベース，ファイル・データ管理，

インターネットでのコミュニケーション，文章表現，プレゼンテーションの方法について実習を行い、実社会で役立つ情報活用の実践力を身につける。

（教育方法）

１人１台のパソコンを用いて実習を行う。テキストに沿って解説を行いながら、それを理解するための課題について毎回レポートを作成し提出する。最終回には作成した資料を基に実際にプレゼンテーションを行う。

（教育評価）

毎回提出されたレポートおよび最終回のプレゼンテーションの評価を基に成績を判定する。

言語系コミュニケーション科目

（教育内容）

・グローバル社会で活躍できるよう、英語に対する興味関心を喚起し、積極的に英語でコミュニケーションを図ることができる英語力を育成する。
・英語を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことという四技能をバランスよく育成すると同時に、文法力、語彙力も強化する。
・中国語、韓国語といったアジア圏の言語を学ぶ機会を提供し、第2外国語への関心・意欲・態度を深めると同時に、言語の背景にある文化についての知識も涵養する。

（教育方法）

・基礎英語は、習熟度別クラス編成とし、個々の学生の英語力に見合った授業を展開する。
・教員による単調で一方通行の授業展開ではなく、会話練習やグループワークを中心としたアクティブ・ラーニングを展開する。また、CALLシステムを用いた会話練習やe-learningによる自学自習を適宜取り入れる。
・一斉授業の枠組みの中でも、学生によって与える教材の質や量を変えるなどの個別指導的な要素を取り入れた指導を行う。

（教育評価）

・定期試験だけでなく、日々の授業の中で行われたパフォーマンスや学習ポートフォリオなどを用いることで多角的な評価を行う。

資格科目（博物館学芸員）

（教育内容）

博物館学芸員資格課程では、動物園水族館や自然史博物館、科学館といった自然系博物館を中心に、生涯学習機関としての博物館で求められる素養を修得するため、専門的な視点（資料や展示、教育、経営など）からの教授とともに、実習を通じて実感を伴った理解を深める。

（教育方法）

博物館の現場や歴史に直接関わる講師陣を中心に、動物園や自然史博物館などの生物系情報をふんだんに取り入れることで、実践的かつ根源的な博物館理解の修得に努めさせる。

（教育評価）

講義においては各分野における博物館理解の修得の程度を確認し、学内実習において最低限の技量を身につけていることを確認した上で、博物館の現場で行う館園実習により、真に博物館を理解した学生を養成する。

保健体育科目

（教育内容）

大学の建学の精神を具体化し、教育目的を達成するために「講義科目」、「演習科目」、「実技科目」をバランス良く配置し、基礎学士力およびそれぞれの学科の専門知識や高い技能の修得のための教育課程を編成している。

（教育方法）

集団的な体育活動と講義を通し、健康やスポーツに関する教育的・科学的根拠に基づいた運動の方法や生活習慣の重要性について理解を深め、関心を高めさせるために多様なカリキュラムを計画している。

（教育評価）

講義科目については定期試験、レポート、小テストを重視して評価を行う。演習科目および実技科目については運動能力だけではなく、毎回の授業においての積極性、協調性、向上心を含めて多角的に評価する。運動能力が高いだけの偏った人間にならないように指導を行っている。

3 各学部および各学科の３ポリシー

■生命環境学部

ディプロマ・ポリシー

生命の尊厳について実践的に深く学び、地球環境に関する建設的な問題意識を持った中堅技術者、研究者等を育成し社会に送り出すことにより、持続可能な社会の発展に寄与する。この目的に添って設定された各学科の卒業要件を満たし、学科の目標とする人間像を身につけた者に学士号を授与する。

カリキュラム・ポリシー

生命環境分野の諸課題について深い見識を有する人材を育成するために

①実践的な学修を可能とする実験実習を重視し、大学内に閉じない教育課程を編成する

②基礎となる教養教育を幅広く学べる共通教育を充実する

③専門領域を極めるとともに、他学科・他学部履修制度により学際的な学修を可能とする

④学生が自ら問題を発掘し取り組むことができる科目を設定する

⑤各学科・コースにおいて教養科目、専門基礎科目、専門科目の履修基準数を示し、これらの科目を系統的に配置したモデルを提示することにより、学修計画の指針とする

アドミッション・ポリシー

生命環境学部は、生命・環境・情報・医療の分野で深く専門の学術を研究し、知・情・意の均整のとれた教育を通して人格の陶冶を図り、持続可能な社会の発展に寄与できる人材を育成することを目的としています。

入学者に対しては、生命の尊厳や自然と人間の共生について関心を持ち、それぞれの学科の目

的をよく理解したうえで、自ら目的を持って持続可能な社会の構築に寄与したいという強い意志と高い倫理観を持った人を求めます。高等学校までの基礎的な学力と学習を続ける強い意志を持ち、学際分野や課外の活動にも意欲のある人を求めます。必須ではありませんが高等学校においてそれぞれの学科の専門性に合った分野の科目を履修しておくことが望まれます。

≪生命科学科≫

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身についていると認められる者に学士（理学）の学位を授与する。

【知識、理解】＜学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容＞

学術の基礎分野を理解できるだけの数学・生物・化学・物理などの自然科学系及び海外からの情報を取り込める語学系の能力を有するとともに、生命・健康及び医療分野における高度な専門的知識と実践力を修得している。

【汎用的技能】＜学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能＞

国内のみならず外国における学術の急速な進歩に対して、十分追従できるだけの理解力と分析力及び語学力を有して学際領域などへ積極的にチャレンジできる能力や、様々な情報通信技術を利用して、情報収集や発信ができる能力を修得している。

【態度・志向性】＜市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性＞

知・情・意の均整のとれた教育を通して専門的知識や技能だけでなく人間性に富んだ人格を有する個人として、常に各自が所属する職場や地域にいかに貢献できるかを考え実践する態度を身につけている。

【統合的な学習経験と創造的思考力】＜学科として育てたい人間像＞

幅広い知識と技術に裏付けされかつ生命の尊さを理解している生命科学及び健康科学の技術者・研究者並びに医療工学分野の知識と実践的技術を身につけた医療技術者である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

・生命科学の高い知識と技術をもち、社会に還元できる人材を育成するため、１年次から段階的に専門科目を配置することで、生命科学に対する興味を引き出し、無理なく高度な知識に到達できるカリキュラム編成とする。

・１年次より学習の進行に合わせて、基礎から応用にいたる豊富な実習をカリキュラムの根幹として配置し、卒業研究へとつなげて行くことで実践的な技術・知識を身につけられるようにする。

・臨床工学コースについては、生命科学と電気工学、電子工学の知識をしっかりと身につけた人材を育成し、国家試験合格に向けて充実した講義科目を設置することで、臨床工学技士資格取得にしっかりと取り組むことの出来るカリキュラム編成を行う。
・帝京科学大学の理念に則って、単に資格や技術を修得することにとどまらず、人と自然の調和をめざし、優れた倫理観を兼ね備えた、時代を担えるような人材の育成に資する教育課程を目指す。

（教育方法）
・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
・専門科目では、講義・演習科目、実験科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
・臨床工学コースでは国家試験対策のためのセミナーを開設する。

（教育評価）
・４年間の学修成果は修得単位数と卒業に必要な要件を満たすことによって総合的に評価を行う。
・臨床工学コースで臨床工学技士を目指す学生は3年終了時に帝京短大専攻科への進学条件を満たさなければならない。

アドミッション・ポリシー

生命科学科では、生命と健康を科学的に捉えて生命現象を解き明かすこと及び医療技術の進歩や、医療機器の先端化・複雑化に伴って要求される高度な知識を持った医療技術者を育成すること、という２つの社会的要請に応え、健康、食品、香粧品、医療、環境分野の実践的スペシャリストを育てることを目的としています。

高校において生物、化学、物理のいずれかを学び、生命コース及び生命・健康コースでは、生命や自然に対して興味を持つ、又はヒトの健康に関心を持つ科学的探究心旺盛な高校での基礎学力（生物、化学）を持つ学生の入学を希望します。臨床工学コースでは、臨床工学分野へ積極的に取り組もうとする強い意欲を持ち、チーム医療に貢献できる社会性、協調性を備えた、基礎学力（物理、生物、化学）を持つ人を求めます。

≪自然環境学科≫

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、社会生活上身につけておくべき技能、態度や志向性などが身についており、学科として目標にする人間像に相当すると認められる者に学士（工学）の学位を授与する。

【知識、理解】＜学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容＞

生物科学ならびに環境科学における体系的学修を通して人間・社会・自然に対する理解を深めるために、専門領域を越えて人類の文化や社会、自然、特に環境に関する問題を探求する姿

勢を身につけている。

【汎用的技能】＜学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能＞

全学共通カリキュラムの多面的履修を通して基礎的な学習能力を養い、専門科目の履修により高度な知識を修得し応用力を深め、現代の多様な課題を発見、収集、分析し、その課題を解決する能力を身につけている。

【態度・志向性】＜市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性＞

演習や実験実習等のカリキュラムの履修、さらにはカリキュラム以外の課外活動等の大学生活を通して、自己管理・他者との協調・協働等のチームワークの重要性を理解し、高い倫理観を持ち社会の一員として行動できる能力を身につけている。

【統合的な学習経験と創造的思考力】＜学科として育てたい人間像＞

４年間にわたる「講義」「演習」「実験」「実習」での学習や「卒業研究」の計画立案、遂行と成果の発表を通して、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探究力、問題解決力、コミュニケーション能力などを総合する力を身につけた人材である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

・１年次には、主として１年次学生を対象とした共通科目として「教養科目」、「情報系科目」、「コミュニケーション科目」「保健体育科目」を開講する。また、大学教育の導入としての「基礎ゼミ」を開講する。さらに、自然環境科学を学ぶための基礎となり、かつ動機づけとなる「専門基礎科目」ならびに「基礎科学実験」を開講する。

・２年次には、「専門基礎科目」に加えて、より専門性の高い「専門科目」を開講し、履修が始まる。生物環境分野では主として自然や生態系を理解するための「マクロ系生物学」の基礎に関する科目、生物機能を理解するための「ミクロ系生物学」の基礎に関する科目、環境科学分野では環境分析や環境浄化などの理解を助けるための「基礎化学」に関する科目を開講する。また、実践力の養成に資する「環境科学演習」、「環境化学実験」、「環境科学野外実習」を開講する。

・３年次には、生物環境分野、環境科学分野ともに、より高度な内容を修得するための科目を開講する。生物環境分野では、「マクロ系生物学」、「ミクロ系生物学」ともに発展科目、環境科学分野ではより高度で広い分野を取り上げる展開科目を開講する。また、実践力の養成に資する「環境生物学実験」、「環境生物学野外実習」、「環境特別実習」を開講し、卒業研究の導入に相当する「自然環境セミナー」を開講する。

・４年時には、各研究室に分属して特定の研究テーマに取り組み、知識および科学的手法の活用力、批判的・論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力の統合的修得を目指した「卒業研究」を履修する。

（教育方法）

・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を

展開する。

・専門科目では、講義・演習科目、実験科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。

（教育評価）

・４年間の学修成果は卒業研究（必修）によって行い、論文指導教員の指導の下で総合的に評価を行う。卒業研究に着手するためには、３年次修了時に９２単位以上を修得していなければならない。

アドミッション・ポリシー

自然環境学科は、人類の発展に伴って発生した多様な環境問題を検証し、その解決を目指し、自然の維持と再生のための知識と科学的手法を修得した、実践的な人材の育成を目的としています。

本学科は、環境問題について、自然に親しみながら動植物との関係から捉え、生物学的な視点から考える生物環境分野と、環境を高度な分析により正確に判定し、環境の浄化、クリーンなエネルギー開発などを行う環境化学分野のカリキュラムを用意しています。いずれの分野でも実験、野外実習を重視し実践力の涵養に力を入れています。

高校では生物と化学を履修し、基礎学力を身につけていることが望まれます。本学科の目的を理解し、自ら進んで学習に取り組み、自然を取りまく多様な環境問題を自ら探求、解決する力を養い、人と自然が共生する持続型社会の発展に貢献する強い意欲を持った人を求めます。

≪アニマルサイエンス学科≫

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身についていると認められる者に学士（理学）の学位を授与する。

【知識、理解】＜学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容＞

ヒトを含む動物の基礎生物学的な専門知識を幅広く有し、それらを科学的な思考によって展開してプレゼンテーションできる能力を修得している。

【汎用的技能】＜学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能＞

動物や人の行動はもとより、日常生活で起こるさまざまな事象・問題を科学的な視点から見つめることができ、分析・理解してそれを正確に表現できる能力を修得している。

【態度・志向性】＜市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性＞

自ら動物を心から愛し、また動物を愛する他者を理解することができる能力を有するとともに、日常の中からさまざまな問題点を抽出し、問題解決にとりくめる能力を修得している。

【統合的な学習経験と創造的思考力】＜学科として育てたい人間像＞

動物にかかわる基礎知識と専門知識を幅広く有し、「人間と動物のよき共生」という視点か

ら社会に貢献できる人材である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

・アニマルサイエンス学科の理念である「人と動物の『共生』」を、科学的な視点で分析・理解・表現できるようになるための、基礎科目と応用科目を配置する。

・専門的な知識と技術を実践的に学ぶための実習科目を重視する。また、学生各人の実習や実践活動を評価する制度を配置する。社会において新たな領域を開拓する人間を育てるため「コミュニケーション力」「組織マネージメント力」を重視する。

・専門性を高めるため、［アニマルサイエンス］、［アニマルセラピー］、［野生動物］、［動物看護福祉］の４コースを設置、関係資格取得のためのカリキュラムを配置する。

（教育方法）

・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。

・専門科目では、講義・演習科目、実験科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。

（教育評価）

・４年間の学修成果は卒業研究（必修）によって行い、論文指導教員の指導の下で総合的に評価を行う。卒業研究に着手するためには、３年次修了時に９２単位以上を修得していなければならない。

アドミッション・ポリシー

アニマルサイエンス学科は、動物の生態、行動、心理、健康、福祉、さらには人の健康と福祉に寄与するために動物を介在させた活動から環境教育分野に至るまで、人と動物の関係に関する諸側面を科学的に理解し、動物と人とのより良い共生の創造に貢献する人材の育成を目指しています。

本学科には、動物看護福祉コース、アニマルサイエンスコース、アニマルセラピーコース、野生動物コースのカリキュラムが用意されていますが、いずれのコースを志望するにしても、本学科の目的を理解し、専門知識と技術の修得に強い意欲を持ち、基礎学力とともに高い倫理観と豊かな感性を備え、将来の成長が期待される人の入学を希望します。

特に、英語、理科、数学の科目に秀で、また、課外活動にも熱心に取り組み、社会貢献に対して強い意欲を持って実践できる人を求めます。

■医療科学部

ディプロマ・ポリシー

専門分野における知識と技能を修得し、他業種と適切な連携を構築しつつ、医療・福祉・介護領域における様々な問題や状況に適切に対応できる実践力を持つことである。そのためには、医療人として、正しい倫理観に基づき人の生命・尊厳を尊重し、人々の健康の維持と増進など社会的ニーズに貢献する自覚と責任感を持つのみならず、他の人との交流の基礎となるコミュニケーション能力や協調性など社会人として必要なスキルを身に着けていることが基本である。また、その専門分野が成立した経緯や歴史を顧みるとともに、日頃から現代社会に目を向け、地域や国内外で生じている医療科学分野での問題点に関心を示す感性も重要である。さらに、医療人として自己向上するためには、常に、多視的思考力と創造的探究心を持ち、科学的根拠に基づいた実践を行う中で、自らの能力や行動をその都度客観的に評価する謙虚さと、生涯学び続ける熱意とが必要である。

カリキュラム・ポリシー

将来の専門職としての医療人となるために、専門基礎科目・専門科目から専門知識と技能を学ぶのみならず、一般教養としての共通科目も学び、知性と感性の調和のとれた豊かな人間性を得ることを目指す。また、人の「いのち」を生物的な観点から科学的に捉える重要性と、精神や生命の尊厳の観点から捉える重要性を学ぶ。その方法は、講義、演習、実習などを組み合わせ集団で行う系統的授業と、少人数教育やアクティブ・ラーニングなどの個別的授業とに分けられる。系統的授業では、自主的に学ぶ姿勢を自覚し実行させるため、必ず予習・復習を行うことを徹底させる。また個別的授業では、医療科学全般に関する問題点の調査・議論を通して、問題解決力、表現力、コミュニケーション能力などを養うことに重点を置く。将来の医療人となるためには、まず国家資格を得ることが前提であるため、知識や技能を国家資格取得水準以上に高めることを目標に、カリキュラムを構築し、教育評価を行う。

アドミッション・ポリシー

医療科学部は、本学が標榜する「いのちを学ぶキャンパス」の理念に則り、医療を科学的、基礎的な観点からとらえ臨床の場に広く応用することを目標にする学部であり、医療人をめざす学生に対し、各学科が連携して教育を行っています。

我が国では超高齢社会が急速に進み、今後、医療、介護、福祉の分野がいっそう重要になってくると予想されます。

そこで将来責任ある医療人として社会に大きく貢献できる専門職を養成するため、次のような入学者を求めます。

1 自らが進むべき職種に関して理解と知識を持ち、自らの明確な意志で進路を決定できる人
2 入学後も初心を持ち続け、日々真面目に授業に出席し、地道に自己研鑽を続けられる資質を持つ人
3 「いのち」の尊厳に対する真摯で謙虚な態度と、相手の立場に立ちやさしく応対できる包

容力と倫理観を持つ人

4 将来他の専門職と協調してチーム医療に参画できるよう、社会人としての常識的マナーや、他人と積極的に会話し議論ができるコミュニケーション能力を有する人

5 科学、医療のみならず、社会、教育、文学、芸術、歴史など人間が関わる幅広い分野に関心を持つ人

≪理学療法学科≫

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身についていると認められる者に学士（理学療法学）の学位を授与する。

【知識、理解】＜学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容＞

基礎・臨床医学に基づいた理学療法学の基礎力を基盤とし、理学療法士国家資格に準拠する専門的知識を修得している。また、現代社会の多様化されたニーズに応じた諸問題を解決するため、科学的根拠に基づいた実践的な理学療法を修得し、共存する人と環境との調和を理解する能力を身につけている。

【汎用的技能】＜学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能＞

他者の心身を理解するコミュニケーション・スキル、臨床上に起こる現象論を十分な知識と理解から論理的に分析する思考力、迅速な判断により疾病の障害像に対応する優れた臨床力のある問題解決能力を身につけている。

【態度・志向性】＜市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性＞

高齢社会、国際社会に適応すべく対象者・文化の多様化による医療・福祉社会情勢の変化に即応できるように、常に自らの能力を客観し評価することで自己修正し、生涯学び続ける姿勢を有することのできる志向性を身につけている。

【統合的な学習経験と創造的思考力】＜学科として育てたい人間像＞

専門性の確立を目指した実践、教育、研究の基盤を身につけ、他領域の人々と連携できる学際的な能力を構築し、将来、専門職として、幅広い社会的活動及び国際的医療活動を通じて社会に貢献できる人材である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

・現代社会の多様化されたニーズに応じた人材育成が必要とされるため、知性と感性の調和の取れた豊かな人間性、基礎的知識と自主性に富んだ学習能力の修得を目指す。加えて、国家資格取得に必要な重点科目や学際的科目を相互に設置し、医療・福祉・保健に携わる専門職

として適応力の高い人材育成のカリキュラムを編成する。

・人間の医療・福祉・保健領域に共通する専門的な方法論と知識を体系的に学び、日々進歩する医療技術の革新にも適応しうる高度な専門的知識を深化させるため、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の連携を前提に段階的に講義、演習、実習科目を配置する。

・医療・福祉・保健領域のスペシャリストとなる臨床的実践力の育成の場として、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力などのキャリアを形成する目的で、医療科学全般に関する研究や議論を推奨し、実践力に積み上げる参加型少人数授業を実施する。

（教育方法）

・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。

・専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。

・学科教員により、理学療法士国家資格に準拠する専門的知識を修得するための講義・演習授業を開設する。

（教育評価）

・４年間の学修成果は修得単位数および評点により、学習状況が国家資格取得水準に達しているかについて、総合的に行う。

アドミッション・ポリシー

21世紀のリハビリテーション医療は、障害を受けた機能の回復を目指すのはもちろんのこと、身体的・精神的・社会的な諸問題を予防し、一人ひとりが豊かな人生を送るための援助をするなど、幅広い分野の活動が対象となります。このため、これからの理学療法士により求められるのは、基礎学力、学問研究に対する意欲、旺盛な好奇心、豊かな感性、そして何よりも『人を思いやる気持ち』です。

本学科の学生には、おおよそ次のような資質を備えることが望まれ、これを実践できる人を求めます。

1 医療・保健・福祉に対する深い関心がある人

2 特に理学療法に興味を持ち、将来はその専門分野における実践・指導に携わることを決意している人

3 素直で明るい人格を有し、優れたコミュニケーション能力や社会人としてのマナーを備えている人

4 病者・弱者に対する共感と、適切な倫理観を持つ人

≪作業療法学科≫

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせ

ておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身についていると認められる者に学士（作業療法学）の学位を授与する。

【知識、理解】＜学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容＞

基礎医学・臨床医学・社会学・作業科学・作業療法学等を基盤とした人－作業－環境、および作業と健康に関する専門的知識を修得し、作業療法プロセスにおいて根拠をもとに適切な実践ができる能力を身につけている。

【汎用的技能】＜学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能＞

保健・医療・福祉・教育を含む多様な実践現場で力を発揮するために、作業療法実践の場の歴史的・社会的・文化的背景を理解しつつ、対象者や他職種と適切な人間関係を構築することができる能力を身につけている。

【態度・志向性】＜市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性＞

人の生命・生活を尊び、健康の促進に責任と役割をもつ専門職として、人類・社会に貢献することを喜びとし、常に学び続ける事ができる能力を身につけている。

【統合的な学習経験と創造的思考力】＜学科として育てたい人間像＞

作業療法士として強い自覚、豊かな感性、科学的思考、創造的探究心を備え、自然・動物・保育・理工学の知識技術を作業療法へ統合する力を持ち、人の健康と幸福のために情熱をもって作業療法に取り組む事ができる人材である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

・人の心身・作業・環境の関係を正しく理解し、作業を通して人の健康を援助するうえで基盤となる知識・技術を講義、演習、実習で学ぶことで、医療・福祉・保健・教育の幅広い領域への健康支援のために実践能力を備えた人材を育成する。

・医療に携わる専門職として、高い倫理感と道徳観をもって対象者と関わる姿勢、適切な判断を行う能力を身につけるために、入学早期から、学内で病や障害の当事者の話しに耳を傾ける機会を設ける。また、早期臨床実習、評価実習、総合臨床実習を段階的に行い、医療人としての認識を確立していく。

・生命の尊厳を謳う本学の基本理念のもとに、すべての命に対する尊厳を保ち、自然・動物・保育・理工学に関する知識を得ることで、多様な専門職との連携や共同作業を行える能力を育成するとともに、人間に関わる本学独自の特徴ある作業療法カリキュラムを配置する。

（教育方法）

・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。

・専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。

・学科教員による国家試験対策のための時間を開設する。

（教育評価）

・4 年間の学修成果は修得単位数、評点及び国家試験対策における学修状況により総合的に行う。

アドミッション・ポリシー

作業療法学科では、「人類の将来を正しく見据え、生命の尊厳を深く学び、自然と人間の共生に貢献できる人材を育成し、持続可能な社会の発展に寄与する。」という建学の精神に基づき、医療、福祉、保健、教育の分野において幅広く活躍し、医療人として誇りを持ち、常に高い専門性を身につけ、社会に還元できる作業療法専門職の養成を目的としています。

そのため、作業療法士になろうとする強い意志を有し、他者の言葉に耳を傾け、自ら積極的に行動し、日常生活を科学する意欲を持つ、次のような経験や知識を有する人を求めます。

1 社会貢献などボランティアの経験を有する人

2 部活やサークル、趣味など、継続した活動の経験を有する人

3 国語、数学、理科、英語、社会などにおいて幅広い基礎学力を有する人

≪柔道整復学科≫

ディプロマ・ポリシー

柔道整復学科の卒業要件単位以上を修得し、柔道整復学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき柔道整復学の内容、卒業後の柔道整復師としての社会生活上身につけさせておきたい臨床技能、市民、社会人として身につけさせておきたい柔道整復師としての態度や志向性、人間像について十分に身についていると認められる者に学士（柔道整復学）の学位を授与する。

【知識、理解】＜学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容＞

保健・医療において、柔道整復専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得してさまざまな状況で活用できる能力を身につけている。

【汎用的技能】＜学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能＞

専攻科目に取り入れている柔道の有段者になることにより身につく礼儀、相手を敬い尊重する仁術の心、およびその基本となる倫理観を培う力を身につけている。

【態度・志向性】＜市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性＞

市民、社会人として責任ある行動をとり、社会生活において自己の担うべき役割について探究する姿勢、ならびに礼儀の習慣やコミュニケーションを重視する姿勢を身につけている。

【統合的な学習経験と創造的思考力】＜学科として育てたい人間像＞

社会人、医療人として必要な倫理観や道徳を身につけ、専門職者として必要な課題、目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができ、情熱のある豊かな人間性を備えた人材である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、柔道整復学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の

ような教育内容と方法を取り入れた講義・演習および実習を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

・社会人・医療人として必要な生命に対する畏敬の倫理や道徳を身に着け、専門職者として必要な課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組む専門性と対応力を育てる。また、個性ある教養人として自己を磨く熱意や意欲を積極的に発揮できるような豊かな人間性、そして「仁」の精神をもとに心身を癒す実践能力と「実学と教養」を重視した柔道整復師の育成を目指してカリキュラムを編成する。

・科学大学としての使命である学術を系統的観点から探究し、科学的根拠にもとづく医療・研究を行うための知識と技術を身につける実践教育としての臨床実技実習を重点的に学ぶ。

・専門科目に柔道を開講し、柔道から柔道整復術の源を学ぶとともに人間教育に力を注ぎ、健全な身体の育成と礼節を尊び、常に相手の立場に立って物事を考え、高い倫理観と医療人としての慈しむ心を持った専門職医療人としての実践的スキルを身につける。

（教育方法）

・柔道整復学専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた講義・演習・実習を展開する。

・柔道整復学専門科目では、講義・演習、実習の整合性・連続性をはかり、フィードバック可能な授業を展開する。

・学科教員による厚生労働省の柔道整復師国家試験対策のための講義演習授業を開設する。

（教育評価）

・４年間の学修成果は修得単位数、評点及び柔道整復師国家試験対策における学修状況により総合的に行う。

アドミッション・ポリシー

柔道整復学科では、次の人材を育成することを目的とし、強い意志を持って実践できる人を求めます。

1 生命に対する深い畏敬の念を持てる人
2 医療人として、人に対する慈しみの心を持てる人
3 柔道整復に対して強い関心を持ち、将来にわたって社会貢献をしていきたい人
4 明確な目標を持って勉学と実習に取り組む向上心のある人
5 生涯にわたって学び続ける向学心と人間形成に努める謙虚な姿勢を持てる人

≪東京理学療法学科≫

ディプロマ・ポリシー

学科が定める卒業要件を満たし、専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身についていると認められる者に学士（理学療法学）の学位を授与する。

【知識、理解】＜学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容＞

理学療法士に必要な医学的知識および理学療法学について、理学療法士国家資格に準拠する専門的知識を修得している。

（1）基礎医学に関する知識の理解

（2）理学療法学に関する知識

（3）国家試験に合格しうる知識

【汎用的技能】＜学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能＞

理学療法士として業務を行う上で必要なコミュニケーション・スキルおよび技能について修得している。

（1）コミュニケーション・スキル

（2）理学療法評価法の修得

（3）理学療法治療法の修得

（4）問題解決能力

【態度・志向性】＜市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性＞

医療従事者として倫理、生涯学習において自己点検できる能力を有し、他職種とともに協働できる能力を修得している。

（1）自己管理能力

（2）チーム医療

（3）医療従事者としての職業倫理

（4）生涯学習能力

【統合的な学習経験と創造的思考力】＜学科として育てたい人間像＞

多様な要望に即応できる質の高い理学療法士を目指し、理学療法士として常に自らを点検し・評価できる能力を有し、生涯学び続ける姿勢を身につけている。また、科学的根拠に基づく理学療法の展開ための研究や高度な徒手的技術を身につけ、後進の指導にも情熱を注げる職業人である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

・理学療法を体系的に教授し、医療職にふさわしい全人的な教育を行うため、教育課程を共通科目（基礎分野）、専門基礎科目、専門科目の３領域に大別し、理学療法に関連する知識の獲得とその実践能力を涵養する。このため講義形式の授業と平行して関連する実習・演習を配置する。

・学生が自身の将来像を見据え、自己学習に取り組む姿勢と動機付けが行えるよう、初年次から学外臨床見学の機会を設ける。引き続き、理学療法士として必要な実践的臨床能力と知識の統合を図るため、２年次臨床検査測定実習、３年次臨床評価実習、４年次臨床総合実習として実地実習を配置する。

・チーム医療における他職種との協働を学び、自らを点検・評価できる理学療法士を養成するため、実践に関する授業配置に重点を置く。更に、科学的思考力を備えた理学療法士の養成を目指し、１年次において理数系基礎科目の修得を担保するとともに、３年次において研究法に関する講義を、更に４年次には卒業研究を選択できるよう配置する。

（教育方法）

・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
・専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
・学科教員により、理学療法士国家資格に準拠する専門的知識を修得させるための講義・演習授業を開設する。

（教育評価）

・４年間の学修成果は修得単位数および評点により、学修状況が国家資格取得水準に達しているかについて、総合的に評価を行う

アドミッション・ポリシー

21世紀のリハビリテーション医療では、対象者に対し、障害を受けた機能を回復し、精神的・社会的な諸問題の解決を図ることに留まらず、その発生を未然に予防し、豊かな人生を送るための支援のできる人材が求められています。

これらに対応できる理学療法士には、基礎学力と学問研究に対する意欲、知的好奇心と旺盛な向上心、優れた治療技術はもちろんのこと、対象者に対する共感的態度と深い理解力が必要となります。

本学科では、何事にも積極的に取り組む姿勢と豊かな創造性を持ち、リハビリテーション医療の実践の場で活躍できるような意欲を持った人を求めます。また、医療に携わる分野の特殊性から、本学科を希望する者は、広く科学と生命に対する興味や人間の身体機能に関心を持つことが望まれます。さらに、関連書物や職業見学などを通し、理学療法士の業務について十分に理解した上で、自ら理学療法士になろうとする強い意志を持つことが期待されます。なお、リハビリテーション医療・福祉分野でのボランティア活動の経験を持つこと、また、数学、物理学、生物について学習しておくことが望まれます。

≪東京柔道整復学科≫

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身についていると認められる者に学士（柔道整復学）の学位を授与する。

【知識、理解】＜学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容＞

平安朝から江戸期を通じ現代柔道整復医療に脈々として生きている伝承的（経験的）医療から近代医療の最新知識、最新技能までの体系的知識を修得している。

【汎用的技能】＜学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能＞

絶え間なく進歩する最新の医療技術に関心と理解を示し、専門的な研究や実践教育で開発された成果をもとに、科学的理論と伝承的医療技術を総合的に理解する能力を備えている。

【態度・志向性】＜市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性＞

患者の痛みを訴える心を理解し、解決のためのチームアプローチを運用する協調性、および社会生活や活動を円滑に保持し豊かな人間性を希求する態度を修得している。

【統合的な学習経験と創造的思考力】＜学科として育てたい人間像＞

豊富な臨床体験教育を通して、外傷で悩む者をいかに早期に社会復帰をなし得るかを考え、情熱的で独創的能力を身に着けた最良な技能を有する柔道整復師である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

- 共通科目(基礎分野)、専門基礎科目、専門科目を系統的に配置し、関連科目の連携を重視しながら計画的に実施することで、社会の一員として協調性を持ちながら自主的に活動し、生命の尊厳を考え、高い倫理性を持って幅広く国民の健康の回復と維持に貢献する人材を育成するカリキュラムを編成する。
- 医師や関連医療職種との連携を円滑に実践するため、専門基礎科目において、疾病および傷害を理解し、臨床現場で実践可能な知識とコミュニケーション能力を獲得できる講義、演習および実習を配置する。
- 専門科目において、平安朝から江戸期を通じ現代柔道整復医療に脈脈として生きている伝承的（経験的）医療から近代医療の最新知識と技術を修得し、外傷施術を科学する探究心を涵養し、地域医療に貢献できることを目的とした講義、演習および実習を配置する。アドバンスセミナー、柔道セラピー総合実習、総合柔道整復セラピーにおいては、柔道整復師国家試験に合格するための自己学習を動機づける。

（教育方法）

- 専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- 専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
- 学科教員による国家試験対策のための時間を開設する。

（教育評価）

- ４年間の学修成果は修得単位数、評点及び国家試験対策における学修状況により総合的に行う。

アドミッション・ポリシー

柔道整復は、日本文化の長い歴史の中で育まれた世界に誇れる伝承医学です。急性外傷である骨折・脱臼・捻挫・打撲・挫傷の施術領域は、その専門性について社会的信頼は厚く、WHOの伝統医学分野で認知されています。スポーツ外傷等の分野における柔道整復の知識や技術を修得するのみならず、幅広く健康の回復と維持に貢献する医療分野です。

本学科では現代の予防医学を背景に、外傷施術を科学する探求心を養い、地域医療に役立つ協調性を持ちながら個性豊かな人材を育成することを目標としており、次のような人を求めます。

1 基礎医学の学習に必要な基礎学力（物理、生物、化学）を備え、知識や技能の吸収に積極的な人
2 生命の尊厳を考え、重んじることができる人
3 社会の一員であることを自覚し、協調性を持ちながら自主的に活動ができる人
4 創意工夫の努力ができる人
5 柔道整復について強い関心を持つ人

≪看護学科≫

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい資質について十分に身についていると認められる者に学士（看護学）の学位を授与する。

【知識、理解】＜学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容＞

（1）人間を全人的・統合的に理解するために物事を多面的に捉えられる幅広い教養を身につけている。
（2）看護を実践するための科学的な専門知識・技術を修得している。
（3）地域社会のヘルスニーズや人のライフサイクルに伴う社会生活を視野に入れ、より健康にその人らしく生きるための知見を有している。

【汎用的技能】＜学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能＞

（1）コミュニケーション・スキルの基本を修得し、人間関係を形成している。
（2）科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している。

【態度・志向性】＜市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性＞

（1）人間の尊厳と生命を尊重する姿勢に基づき、対象者に対する倫理的判断をすることができる。
（2）保健・医療・福祉システムの中で、多職種と連携・協働し、看護の専門性を発揮する基礎的能力を修得している。
（3）自らの行動を省察し、改善する姿勢を有している。

（4）主体的な学習態度を身につけ、看護専門職者として生涯学び続ける姿勢を有している。

【統合的な学習経験と創造的思考力】＜学科として育てたい人間像＞

人間の生命に対する深い愛情と畏敬の念を基盤として、高い倫理観と豊かな人間性が形成され、国際的な視野を持ち幅広い教養と看護職者としての専門知識・技術を修得し、人々の健康の維持増進に貢献するとともに、看護学の発展に寄与する姿勢を有することができる人材である。

カリキュラム・ポリシー

生命の尊厳を深く学び、高い倫理観を持ち、看護学の発展や地域社会の人々の健康に貢献できる看護専門職を育成するため、以下のような方針に基づき、教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

1．対象となる人の人権を尊重する豊かな人間性と倫理観を育成するため、多様な教養科目を配置する。
2．看護学の基盤として、人体や病態を理解する科目と保健・医療・福祉を統合的に理解する科目を専門基礎科目に配置する。
3．看護学としての専門知識・技術を学び、科学的思考を育成するため、看護の基本、看護援助の方法、看護の実践、看護の発展を系統的に配置し、概論、方法論、実習の順に教授する。
4．多様な健康レベルや生活の場における看護実践能力を養い、地域包括ケアシステムの要として多職種や地域住民と連携・協働できる能力を培うための科目を配置する。
5．主体的に学び、将来の多様なキャリア発展の可能性を追求するため、看護研究、国際看護、認知症ケア、リプロヘルスケア、スピリチュアルケア、ホリスティックケアの科目を配置する。
6．地域の健康課題の解決のための個人・家族・集団・地域への継続的支援ならびに住民のニーズを施策化できる保健師教育を選択制で行う。

（教育方法）

・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
・専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
・学科教員による国家試験対策のための授業を行う。

（教育評価）

・４年間の学修成果は修得単位数、評点及び臨床実習の状況並びに国家試験対策における学修状況により総合的に行う。

アドミッション・ポリシー

看護学科は、生命と個人の尊厳を深く学び、高い倫理観を持ち、国際的視野に立った幅広い教養と人間性が豊かで、科学的思考に基づいた専門知識と技術を身につけ、看護学の発展や地域社

会の人々の健康に貢献できる看護専門職の養成を目的としています。

そのため、次のような資質・能力を持つ人の入学を希望します。

1 生命に対して深い畏敬の念を持ち、高い倫理観が持てる人

2 地域社会や人間に対して関心を持ち続けられる人

3 多様な価値観を持つ人々との関係性を築くことができる柔軟性が持てる人

4 看護学に必要な基礎学力（国語、英語、生物、数学など）を備え、研鑽し続けられる人

5 課外活動やボランティア活動などに主体的に参加できる人

≪医療福祉学科≫

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件124単位以上を修得し、学科として専攻するグローバルな視野に立った教養・専門知識・技術・倫理観を修得し、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能・態度や志向性、福祉人材として多様な文化を受け入れ専門職として問題解決力・実践力を身につけた者に学士（医療福祉学）の学位を授与する。

【知識、理解】＜学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容＞

①社会人として必要な基礎的・基本的な教養の修得に加えて、社会福祉に関する今日的な課題を理解している。

②社会福祉の専門職として専門的知識や技能を修得している。

③変化する社会に柔軟に対応し、新たな課題に創造的に取り組むことのできる意欲と広い視野を備えた総合的・学際的な知識や学び方を獲得している。

【汎用的技能】＜学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能＞

①多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを伝えることができる力を獲得している。

②他者と協力して社会に参画し、自ら新たな社会を創造・構築していくことができる能力を修得している。

③自己理解能力と、自らの思考や感情を律することができる力を身につけている。

【態度・志向性】＜市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性＞

①社会福祉分野の専門職として、倫理観・規範意識を身につけ、福祉サービスの利用者及び利用者家族から信頼を得られる道徳的態度と実践力を身につけている。

②絶えず研究と修養を積み重ね、自らを成長させようとする姿勢を有している。

③科学的思考力に基づく判断力やコミュニケーション能力、観察力、洞察力を身につけ学習者としての態度や志向性を有している。

【統合的な学習経験と創造的思考力】＜学科として育てたい人間像＞

①自らの福祉観と、人間への深い関心と尊厳をもって、社会福祉ニーズに対する姿勢を身につけている。

②人間や社会に関する専門的見識、広い視野と異質なものへの理解力、多面的な思考力と科学的思考力、人間らしさなどを身につけ、学際的な学びを獲得している。

③社会人として必要な基礎的・基本的な教養の修得に加えて、社会福祉に関する今日的な課題を理解している。
④社会福祉の専門職として専門的知識や技能を修得している。
⑤変化する社会に柔軟に対応し、新たな課題に創造的に取り組むことのできる意欲と広い視野を備えた総合的・学際的な知識や学び方を獲得している。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

・社会福祉学、介護福祉学、精神保健福祉学の基盤となる、社会福祉の基礎知識、倫理観、福祉観、医学的知識および現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学ぶ。さらにそれらの学びを生かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学ぶ。
・共通科目は、専門分野の枠を超えた、人間としての在り方や生き方を学び、21世紀の地球市民に求められる知的な技法と国際的教養と豊かな人間性を養うための科目区分である。具体的には、共通科目は、教養科目（人文系・社会系・自然系・複合系）、コミュニケーション科目（言語系・情報系）、保健体育科目、セミナー科目の4つに区分して配置している。
・専門科目は、社会福祉専門職に必要な知識・技術を修得するための、社会福祉の基礎知識と医学・心理学等の学びを中心とした専門基礎科目と専門的知識や実践力を身につけ、社会福祉およびソーシャルワークの視点で生活課題および心理社会的現象をとらえ、解決に導く実践方法を学ぶための専門科目をバランス良く配置をしている。
・社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の資格取得に向け、医療福祉の専門領域や分野別に体系性・順序性を考えて配置している。また、スクールソーシャルワーカーや医療ソーシャルワーカーなど現代社会のニーズに応える専門教育を学ぶことができる。社会福祉は、実践の科学であるため、演習・実習に重点を置き、充実を図っている。

（教育方法）

・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
・専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
・学科教員による国家試験対策のための時間を開設する。

（教育評価）

・４年間の学修成果は修得単位数、評点及び実習の状況並びに国家試験対策における学修状況により総合的に行う。

アドミッション・ポリシー

医療福祉学科では、人間とその生活環境としての社会、そして両者の交互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会」の実現に向けて貢献できる人材の育成を目指します。子どもか

ら高齢者まですべての人が、生活の質を高め、より幸せな生活が送れるよう支援を行うことを業とする社会福祉の専門職（社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士）は、支援を必要としている一人ひとりに寄り添うことから、社会の制度を変えていく働きかけまで幅広い活動を行っています。

そのため、社会と人に関心を持ち、何事にも積極的に取り組む姿勢、豊かな創造性がある次のような人を求めます。

1　人の話を聞くことができる人
2　人の痛みを理解し共感できる人
3　創意工夫ができる人
4　他者と協働して何かを成し遂げた経験がある人
5　基本的な生活習慣が確立し、道徳的実践力を備えている人
6　部活動や生徒会活動での指導的な役割や地域社会でのボランティア活動の経験がある人

■教育人間科学部

ディプロマ・ポリシー

自然と人間の共生を深く理解し、科学的な想像力と豊かな感性・子どもを慈しむ温かい心を持ち実践的指導力のある教育的指導者を社会に送り出すことにより、未来社会を担う子ども達の教育に貢献する。この目的に添って設定された各学科の卒業要件を満たし、学科の目標とする人間像を身につけた者に学士号を授与する。

カリキュラム・ポリシー

社会を率先して牽引する教育的指導者を育成するために、
①実験、実習を重視した教育課程の編成により実践的な教育的指導者を育成する
②地域社会との連携を取り入れた教育課程を編成する
③正課外の教育的社会活動に配慮し、大学外での学修活動を評価する
④自らの専門分野に閉じず、複数の分野を学び、資格取得につながるプログラムを提供する
⑤各学科・コースにおいて教養科目、専門基礎科目、専門科目の履修基準数を示し、これらの科目を系統的に配置したモデルを提示することにより、学修計画の指針とする

アドミッション・ポリシー

教育人間科学部は、未来を担う子どもたちの健全な生きる力と感受性を育み、豊かな子ども文化の創造に寄与する教育的指導者を養成することを目的としています。

入学者に対しては、いのちの大切さや自然の豊かさに対する畏敬の念と教育・保育への高い関心を持ち、自らが求める教育的指導者を通じて社会に貢献したいという強い意志と責任感を持った人を求めます。その上で、文系理系の枠にとらわれず、高校までの基礎的な学力と学習に対する積極的な姿勢を持った人を求めます。

≪こども学科≫

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけておくべき内容、卒業後の職業や社会生活上身につけておきたい技能、社会人として身につけておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について、十分に体得していると認められる者に学士（児童学）の学位を授与する。

【知識、理解】＜学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容＞

身近な動植物や玩具および教材を活用して子どもの生命や自然に対する感受性を育み、遊びと学習によって子どもの好奇心、創造力、生きる力を育むための学術的知識と実践的な活動能力を身につけている。

【汎用的技能】＜学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能＞

幼少期および児童期の子どもを対象として、命の温もり、自然の美しさ、不思議さなどを伝え、豊かな子ども文化の創造と能動的な学習および生きる力の育成に貢献するための高度な専門的知識と実践的技能を身につけている。

【態度・志向性】＜市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性＞

知・情・意の均整のとれた健全な人格を備え、「身近な動植物・玩具および科学技術」を豊かな子ども文化の創造と能動的な学習および生きる力の育成のために教育活用するのみならず、そのための効果的教育手法の開発を志向し実践する態度を備えている。

【総合的な学習経験と創造的思考力】＜学科として育てたい人間像＞

未来を担う子どもたちの健全な生きる力と感受性を育み、豊かな子ども文化の創造と能動的な学習に寄与する教育的指導者である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

・教養科目、こどもと教育・保育、自然と科学に関する講義、演習および実習を通じて、広義のこどもの文化的な活動と児童期の能動的な学習ならびに生きる力の発達を支援できる人材を育成するカリキュラムを編成している。
・こども学、保育学、教育学、自然科学の分野間の連携を前提とした国家資格・免許取得の講義科目を配置するとともに、臨床的実践の重要性を踏まえ、総合的で段階的な演習、実習科目を配置する。
・専門科目の相互理解を重視し、資格・免許取得の意欲を促すとともに、次世代を担うこどもたちが元気に成長して生きる力を備え、そして能動的に学習できる社会作りを主導できるキャリア形成を支援する。

（教育方法）

・専門科目では、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業

を展開する。
・専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
・学科教員、教職センターによる教員採用試験対策のための時間を開設する。
（教育評価）
・４年間の学修成果は卒業研究（選択）によって行い、論文指導教員の指導の下で総合的に評価を行う。卒業研究に着手するためには、３年次修了時に９２単位以上を修得していなければならない。

アドミッション・ポリシー

こども学科では、動物やロボット、自然環境を活用した新しい教育方法を構想し、子どもにいのちに対する豊かな感受性と自然に対する幅広い好奇心を育み、伸び伸びとした主体性と創造力を引き出すことのできる、教員・保育者の養成を教育目標としています。

子どもが夢と希望を育むことのできる豊かな子ども文化を創造するために、子どもや教育・保育への関心とともに、動物や自然や科学に関心を抱き、文系理系の枠にとらわれずその素晴らしさを深く学びとることができる豊かな感性と強い意志を持ち、子どもに夢と希望を与えることを目指す人の入学を希望します。

なお、次の１～３の経験がある人が望ましいと考えます。

１ 小学校や幼稚園、保育所、福祉施設などでボランティアの経験がある人

２ 理科や芸術（教科）や体育の授業に積極的に取り組んでいる人

３ 学習・保育教材として活用できる作品を制作したことがある人

≪幼児保育学科≫

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で学修すべき内容、卒業後の職業、社会生活上必要な技能、市民、社会人として身につけるべき態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身についていると認められる者に学士（児童学）の学位を授与する。

【知識、理解】＜学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容＞

①社会人として必要な基礎的・基本的な教養の修得に加えて、21世紀に生きる子どもを育てる上で必要な教育・保育に関する今日的な課題を理解している。

②教育・保育の実践的な活動を支え、それに不可欠な教育学・心理学・保育学などの専門的知識や技能を修得している。

③変化する社会に柔軟に対応し、新たな課題に創造的に取り組むことのできる意欲と広い視野を備えた総合的・学際的な知識や学び方を獲得している。

【汎用的技能】＜学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能＞

①子どもに対する深い愛情と教育・保育者としての責任と誇りを持ち、絶えず研究と修養に努

める能力を身につけている。
②教育・保育者としての教養を身につけ、自分の意見を持って、他者（子ども・保護者・同僚・上司など）とのコミュニケーションをとる能力を身につけている。
③子どもをよく観察・理解し、そのよさや可能性を引き出す指導計画の立案及び実践のできる力量を身につけている。

【態度・志向性】＜市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性＞
①専門職としての教育者・保育者の使命感・倫理観・規範意識を身につけ、子ども・保護者・地域から信頼を得られる実践力を身につけている。
②子ども・同僚に学び、省察と改善を基に、絶えず研究と修養を積み重ね、自らを成長させようとする姿勢を有している。
③批判的思考力やコミュニケーション能力をもった自律した教育・保育者であり、学習者としての態度や志向性を身につけている。

【統合的な学習経験と創造的思考力】＜学科として育てたい人間像＞
①知・情・意の均整のとれた価値観を身につけ、子どもを慈しむ温かい心を持ち「いのちの温もりと自然の豊かさと美しさを伝える」ことを基本にしている。
②4年間の学修をとおして、乳幼児期の子どもの成長を多面的・総合的に捉え直し、時代が求める教育及び保育の課題に挑戦する意欲と実践的指導力を身につけている。
③子ども理解や人間・社会に関する専門的識見、広い視野と異質なものへの理解力、多面的な思考力と批判的判断力、人間らしさなどを身につけ、学際的な学び方を獲得している。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）
・教育・保育者及び社会人として必要な基礎的な教養を学ぶ。
21世紀を生き抜く子どもを育成するうえで不可欠な教育学・心理学・保育学・保育内容論などの専門的知識や技能の学修と研究を通して、子どもを慈しむ温かい心と命の大切さを伝える力量を備えた人材を育成するカリキュラムを編成する。（基幹科目・専門科目の配置）
・教育及び保育の課題を積極的に創出する意欲と実践的指導力の修得を支援する。
保育士、幼稚園教諭の資格取得に必要な講義科目及び演習・実習科目を配置し、理論と実践を結びつけられるように乳幼児の連続した子どもの成長を多面的・総合的に学修するカリキュラムを編成する。（講義・演習・実習科目の配置）
・専門職に求められる使命感・倫理観・規範意識を育てキャリア形成を支援する。
教育・保育者は、自らが学習する主体として絶えず研究と修養を積み重ね自己成長する存在であることから、学習者としてのキャリア形成を自発的・積極的に実現可能にする専門性のある、しかも学科の特性を生かした多様な選択科目を配置する。（専門性の高い選択科目の配置）

（教育方法）

・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
・専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
・学科教員、教職センターによる教員採用試験対策等のための時間を開設する。

（教育評価）

・４年間の学修成果は修得単位数、評点及び実習の状況並びに教員採用試験対策等における学修状況により総合的に行う。の状況並びに教員採用試験対策等における学修状況により総合的に行う。

アドミッション・ポリシー

幼児保育学科では、子ども一人ひとりの思いに愛情を持って寄り添い、子どもの良さや可能性を引き出すことのできる、教養と実践力を備えた保育者を養成することを目的としています。

そのために、次のような人の入学を希望しています。

1　基礎的な学力を有し、生涯にわたって学ぶ意欲を持っている人
2　自然や社会に対する幅広い好奇心を持っている人
3　ボランティア等の社会貢献活動に積極的に取り組む意欲がある人
4　共感性と自己表現力を有し、円滑なコミュニケーションをとることができる人

≪学校教育学科≫

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身についていると認められる者に学士（学校教育学）の学位を授与する。

【知識、理解】＜学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容＞

①社会人として必要な基礎的・基本的な教養の修得に加えて、21世紀に生きる児童・生徒を育てる上で必要な教育に関する今日的な課題を理解している。
②教育の実践的な活動を支え、それに不可欠な教育学・教科内容学・教科教育学などの専門的知識や技能を修得している。
③変化する社会に柔軟に対応し、新たな課題に創造的に取り組むことのできる意欲と広い視野を備えた総合的・学際的な知識や学び方を獲得している。

【汎用的技能】＜学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能＞

①児童・生徒に対する深い愛情と教育者としての責任と誇りを持ち、絶えず研究と修養に努める能力を身につけている。
②教育者としての常識を身につけ、自分の意見を持って、他者（児童・生徒・保護者・同僚・上司など）とのコミュニケーションをとる能力を身につけている。

③児童・生徒をよく観察・理解し、そのよさや可能性を引き出す指導計画の立案及び実践ができる力量を身につけ、反省的思考による改善に意欲的に取り組む力を身につけている。

【態度・志向性】＜市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性＞

①専門職としての教育者・保育者の使命感・倫理観・規範意識を身につけ、児童・生徒・保護者・地域から信頼を得られる道徳的実践力を身につけている。

②児童・生徒・同僚に学び、省察と改善を基に、絶えず研究と修養を積み重ね、自らを成長させようとする姿勢を有している。

③批判的思考力やコミュニケーション能力をもった自律した教育者であり、学習者としての態度や志向性を身につけている。

【統合的な学習経験と創造的思考力】＜学科として育てたい人間像＞

①自らの教育観として、「児童・生徒を慈しむ温かい心」「いのちの大切さを伝える」ことを基本にしている。

②4年間の学修をとおして、児童・生徒の成長を多面的・総合的に捉え直し、時代が求める教育の課題に挑戦する意欲と実践的指導力を身につけている。

③児童・生徒理解や人間・社会に関する専門的識見、広い視野と異質なものへの理解力、多面的な思考力と批判的判断力、人間らしさなどを身につけ、学際的な学び方を獲得している。

カリキュラム・ポリシー

教員免許取得に関わる教育専門職の科目を核にして、科学的素地を有する教育的指導力を備えた人材養成を行うために、次のような教育課程を構成する。

共通科目は、専門分野の枠を超えた、人間としての在り方や生き方を学び、21世紀の地球市民に求められる知的な技法と国際的教養を養うための科目区分で構成する。具体的には、共通科目は、教養科目(人文系・社会系・自然系・複合系)、コミュニケーション科目(言語系・情報系)、保健体育科目、セミナー科目の4つに区分して配置する。

専門科目は、教育的指導者に要求される子どもの発達や教育に関する対する基礎知識を得る「教職基礎科目」と専門的な教科指導に必要な諸方法や社会と学校との関わりについて学ぶ「教職応用科目」、専門的な教科指導に必要な教科内容の基礎を学ぶ「教科基礎科目」、理科・保健体育・英語などを専門とする教員に必要な高度な教科内容を学ぶ「教科応用科目」に区分して配置する。

（a）教職基礎科目は、「教育原理」、「発達心理学」、「教育心理学」等の基幹科目を配し、教育的指導者に要求される子どもの発達や教育に関する基礎的理解力を養成する。

（b）教職応用科目は、「教科教育法」、「道徳教育の理論と実践」、「特別活動論」、「教育方法論」、「教育実習」等の基幹科目を配し、教科指導に必要な諸手法や社会と学校との関わりについて学び、教職に不可欠な教育手法と技能を養成する。

（c）教科基礎科目は、教科に関する基礎技能科目群として「国語」、「算数」、「科学基礎」、「物理学実験」、「体づくり」、「運動学」、「English Grammar I/II」、「英語圏文化論」等を配し、小中高等学校教育の教科指導に必要な教育内容に関する理解力を養成する。

（d）教科応用科目は、教科に関する応用技能科目群として、「ロボット応用教育演習」、「物理学特論Ⅰ」、「化学特論Ⅰ」、「生物学特論Ⅰ」、「運動心理学」、「武道教育論」、「運動指導論」、「第二言語習得論」、「英語教育の中の英米文学・文化」、「多言語多文化演習I/II」、「School Internship I/II」等を配し、理科・保健体育・英語などを専門とする教員に必要な高度な教科内容に関わる応用的理解力と実践的技能を養成する。

アドミッション・ポリシー

学校教育学科では、未来社会を担う児童・生徒の教育に貢献するために、小学校教育、理科教育、保健体育教育及び英語教育に関する高度な専門知識はもちろんのこと、豊かな人間性やコミュニケーション能力、広い視野を持った教員を養成することを目的としています。コースを問わず、大学4年間で身に付けて欲しい資質能力は、「規律正しさ」と「学び続ける力」です。

そのため、入学者に対しては、基本的な生活習慣が確立し、道徳的な実践力が備わっていることが求められます。その上で、高等学校までの全教科にわたる基礎的な学力を有し、小学校コースでは子供の発達や成長に、中高理科コースでは理系科目に、中高保健体育コースではスポーツや健康に、国際英語コースでは英語や言語一般、異文化に対して、それぞれ興味関心をもち、自ら学び考えることのできる人を求めています。

また、部活動や生徒会活動での指導的な役割や、小学校・中学校・施設等でのボランティア体験などの地域貢献活動に積極的に取り組む意欲がある人を求めています。

4　教職課程のポリシー

カリキュラム・ポリシー

教職センターでは、豊かな人間性と専門的な知識を備え、学習者を支援できる実践力を有し、さらには他者と協同して教育活動を実施できるコミュニケーション能力を備える教育者を養成することを教育目標とする。この教育目標は帝京科学大学の建学の精神および各教職課程認定学科が定めるディプロマ・ポリシーに対応するものであり、教職センターは各教職課程認定学科と連携をはかりながら、教育活動の編成・実施を行う。

（教育内容）

上述した教育目標を実現するため、教職センターは教員免許取得に関わる「教職に関する科目」を核とし、次のように教育課程を編成する。

（a）教職専門科目は、教職基礎科目と教職応用科目から構成される。教職基礎科目は「教職の意義等に関する科目」および「教育の基礎理論に関する科目」から成り、教育者に要求される子どもの発達や教育に関する対する基礎知識を修得することを目的とする。教職応用科目は「教育課程及び指導法に関する科目」および「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」から成り、専門的な教科指導に必要な諸方法や社会と学校との関わりについて学ぶことを目的とする。

（ｂ）「教育実習」と「教職実践演習」では、上記の教職専門科目を通して学んだことを教育現場で実践し、それを振り返りつつ、教育者に不可欠な実践的指導力およびコミュニケーション力を養成する。

（ｃ）卒業後の教職生活を見据えた科目として「教職ゼミ」などを設置し、キャリア形成に向けて自分自身を見つめ直しつつ「学び続ける教師」としての探究力を身につける。

（教育方法）

・少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。

・教職専門科目、演習科目、実習科目および「教科に関する科目」との整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。

・実習科目に対する意識を高めるため、教職センターは実習に関連した各種ガイダンス・講習会を定期的に開催する。

・教職センターは各教職課程認定学科と連携をはかりつつ、個々の学生の希望に応じた教員採用試験対策等のための時間を開設する。

（教育評価）

・各科目のシラバスに明記した成績評価基準・方法に基づき、評価を行う。

・履修生は「教職履修カルテ」による自己評価を定期的に実施し、教職センターはその記載内容に応じた個別指導を行う。

・４年間の学修成果は修得単位数、評点及び実習の状況並びに教員採用試験対策等における学修状況により総合的に行う。

２．大学院

１　大学院全体の３ポリシー

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学は「人類の将来を正しく見据え、生命の尊厳を深く学び、自然と人間の共生に貢献できる人材を育成し、持続可能な社会の発展に寄与する。」を建学の精神としている。この精神に基づき、各専攻の所定の課程を修め、各専攻が定めた専門知識、研究能力、高度な専門業務を遂行できる能力、さらに高い倫理観及び健全な人格を身に付けた学生に学位を授与する。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学の建学の精神にある「人類の将来を正しく見据え、生命の尊厳を深く学び、自然と人間の共生に貢献できる人材」を育成することを目標とし、ディプロマ・ポリシーに定める能力を身に付けるために、各専攻の目的に沿ったカリキュラムを編成する。また、高い倫理観と健全な人格を身に付けるために、適正な教育・研究環境を提供する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学の建学の精神である「人類の将来を正しく見据え、生命の尊厳を深く学び、自然と人間の共生に貢献できる人材を育成し、持続可能な社会の発展に寄与する」ことに共感し、社会に貢献したいという使命感と意欲を持ち、その上で、専攻ごとに掲げる知識と能力を持った人材を受け入れる。

２ 各専攻の３ポリシー

■理工学研究科

≪バイオサイエンス専攻≫

ディプロマ・ポリシー

・生命科学や医療科学の基礎的素養とより高度な専門知識及び実践的な研究技術力を身に付けている。
・生命科学分野の研究に必要とされる問題発見力、問題解決力、論理的思考力、コミュニケーション能力、研究倫理を身に付けている。
・自らの考え及び成果を口頭及び文書で適切に表現することができる。

カリキュラム・ポリシー

・生命科学の基礎研究や応用研究に必要なより高度な専門知識を学ぶための４分野（生命工学、生体機能学、生物有機化学、及び医療科学）に分類された各種講義を配置している。
・国際的視野を広げ研究能力、及び語学力を高めるために、各指導教員が文献の講読指導と討議を行う輪講を配置している。
・問題発見力、問題解決力、論理的思考力、プレゼンテーション能力を身に付け、さらに研究計

画の実行に必要な専門知識、研究技術、研究倫理を身に付けるための特別実験を配置している。
・知識・技能の修得状況に関しては、各科目の試験及びレポートの評価に加えて、日常の研究活動、発表会におけるプレゼンテーションを含めた修士論文の評価を通して判断する。

アドミッション・ポリシー

・生命科学に関連する微生物科学、動物科学、植物科学、分子生物学、生物化学、有機化学、医療科学等の各分野の基礎知識あるいはこれらの総合的知識を身に付けている。
・生物試料を取り扱う者や医療に従事する者として、学部卒業生としての倫理観を備えている。
・学術情報の取得に必要な英語力を身に付けている。
・論理的思考力及びコミュニケーション能力を身に付けている。

≪環境マテリアル専攻≫

ディプロマ・ポリシー

・環境科学に関する専門知識と調査・研究手法を身に付けている。
・環境問題に関心を持ち、未解決な課題を自ら見つけ、探求することができる。
・国際的視野に立って、自ら考え、かつ他者と協力しながら問題解決のために行動できる。
・自らの考え及び成果を口頭及びに文書で適切に表現することができる。

カリキュラム・ポリシー

・環境科学・環境機能材料及び自然環境分野の専門知識と調査・研究手法を身に付けるための授業科目を配置している。
・国際的視野を広げ研究能力及び語学力を高めるために、各指導教員が文献の講読指導と討議を行う輪講を配置している。
・高度な研究能力と高い倫理観を修得するために、特別実験を配置している。
・知識・技能の修得状況に関しては、各科目の試験及びレポートの評価に加えて、日常の研究活動、修士論文と修士論文発表会における評価を通して判断する。

アドミッション・ポリシー

・環境科学に関する基礎学力を身に付けている。
・学術情報の取得に必要な英語力を身に付けている。
・論理的思考力及びコミュニケーション能力を身に付けている。

≪アニマルサイエンス専攻≫

ディプロマ・ポリシー

・ヒトと動物の関係及びヒトを含む動物についての科学的な専門知識と調査・研究手法を身に付

けている。
・ヒトと動物の関係ならびにヒトを含む動物についての諸問題に関心を持ち、科学的・合理的な視点から分析・理解してそれを正確に表現して問題解決に寄与できる能力を身に付けている。
・国際的視野に立って、科学的な思考と合理的な推論をもとに自ら考えて意思決定し、他者と協力しながら問題解決のために行動できる。
・自らの考え及び成果を口頭及び文書で適切に表現することができる。

カリキュラム・ポリシー

・ヒトと動物の関係及びヒトを含む動物についての科学的な専門知識と調査・研究手法を身に付けるための授業科目を配置している。
・国際的視野を広げ研究能力及び語学力を高め、科学的・合理的な視点から分析・理解する能力を高めるために、各指導教員が文献の講読指導と討議を行う輪講を配置している。
・高度な研究能力と高い倫理観を修得するために、特別実験を配置している。
・知識・技能の修得状況に関しては、各科目の試験及びレポートの評価に加えて、日常の研究活動、修士論文と修士論文発表会における評価を通して判断する。

アドミッション・ポリシー

・ヒトと動物の関係及びヒトを含む動物についての科学的な基礎学力を身に付けている。
・学術情報の取得に必要な英語力を身に付けている。
・論理的思考力及びコミュニケーション能力を身に付けている。

≪先端科学技術専攻（博士課程）≫

ディプロマ・ポリシー

各領域における高度な専門知識と調査・研究手法を身に付け、かつ新しい調査・研究手法を開発できる能力を身に付けている。
自立して研究を遂行できる能力と他者を指導できる能力を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー

特別実験として自ら立案した研究を行い、博士論文を作成する。さらに、文献の講読、学会発表、専門誌への投稿を行う。これらを通して、国際的視野をもち、他者を指導できる、自立した研究者としての能力を身に付ける。
各領域における専門知識と研究手法を身に付けるための授業科目を配置している。
博士論文の審査を重視するが、日常的な研究活動全般も評価する。

アドミッション・ポリシー

自立して研究するために必要な専門知識を身に付けている。
学術情報の取得と研究結果を発表するために必要な英語力を身に付けている。

論理的思考力及びコミュニケーション能力を身に付けている。

■医療科学研究科

≪総合リハビリテーション学専攻≫

ディプロマ・ポリシー

・研究姿勢を保ち、新たな課題解決に取り組み、常に最新の知識や技術を探求することができる。
・生活機能を支援する最新の知識を修得し、科学的根拠に基づいた論理が構築でき、それらに基づく最新で的確な介入が実践できる。
・健常者、障害者を問わず、疾病や障害の予防、健康の維持増進などの観点から多角的、総合的に生活支援を理解し分析できる。

カリキュラム・ポリシー

・各分野で指導的・中心的役割を果たすとともに、他職種との適切な連携ができ、臨床・教育・研究に寄与できる高度専門的職業人の育成を目指して、体系的かつ実践的な教育を行う。
・幅広い学修が可能となるよう、学際領域を含む科目を開講し、履修選択を広げて、各人の希望に応じた多様な科目を履修可能な教育課程とする。
・研究科専攻において、研究のために必要な基本的事項の学修に基づき、特別研究、論文作成をとおして、批判力、論理性、表現力を育成するための教育体制を整備する。

アドミッション・ポリシー

・疾病の予防や健康増進、生活の支援など、地域での自立生活や社会参加の支援等に至る様々な展開に貢献しようという意欲をもった人
・医療及び地域の実践場面における問題発見能力や問題解決能力をはじめ、実践研究の計画、情報処理、ディスカッション、プレゼンテーション等の能力を高め、高度専門職業人並びに実践研究者としての資質を高めたいという姿勢と熱意をもった人
・高い倫理観と豊かな人間性をもった人

≪柔道整復学健康ケア専攻≫

ディプロマ・ポリシー

・研究姿勢を保ち、新たな課題解決に取り組み、常に最新の知識や技術を探求することができる。
・「健康づくり」を推進するために、柔道整復学における外傷の予防・改善に関する最新の知識を修得し、科学的根拠に基づいた論理が構築でき、それらに基づく最新で的確な介入が実践できる。
・柔道整復学を基として怪我を未然に防ぐ為の運動処方の観点から健康管理の手助け（健康ケア）

ができる。

カリキュラム・ポリシー

・各分野で指導的役割を担うとともに研究、臨床、教育に寄与できる高度専門職業人の育成を目指し、安心、安全な医療や健康づくり支援を遂行できる教育を行う。
・人々の健康づくりに貢献するためには、研究者、医療人、教育者として、最新の知識や科学的根拠に基づいた理論が構築でき、それらを適確に実践できる人材の育成、また研究・教育成果を社会に発信していける人材育成が欠かせないため、身体の構造・機能、病因論や健康科学に関する講義を実践する。
・運動を通じた健康管理の支援や運動に伴う外傷に関する指導者、教育研究者として、最新の専門的な医科学的知識や技術の修得に向けた教育体制を整備する。
・研究課題に対して、科学的根拠に基づいて検証する研究手法、論文作成を通して、問題解決能力、論理性、表現力を育成するための教育体制を整備する。

アドミッション・ポリシー

・柔道整復学の理論に基づく外傷の予防・改善、運動による健康ケアの増進など、臨床現場、スポーツ施設や地域の健康カルチャー室など地域の健康づくりに貢献できる人
・医療や地域の実践場面における問題発見能力、問題解決能力、論理性や表現力等の他、実践研究の計画、ディスカッション、プレゼンテーション等の能力を高め、高度専門職業人並びに実践研究者としての資質を高めるための能力をもった人
・高い倫理観と豊かな人間性をもった人

≪看護学専攻≫

ディプロマ・ポリシー

・高度専門職業人として尊厳ある生を支えるために、高い倫理観と思考力・技術をもち、人々の健康に貢献できる。
・看護の実践知を科学的思考に基づき論理的に検証し看護の発展に寄与できる。
・実践の場でのリーダー・管理者、教育者、研究者として必要な専門的知識・技術を活用できる。
・療養生活又は地域生活を支える次のいずれかの実践能力を有し、社会に貢献できる。
  ① 主に医療機関から地域生活へと円滑に移行できるために、人々が病や障がいをもちながら最期まで安心できる療養生活を支える実践能力。
  ② 主に健康問題を個人レベルだけではなく社会的な問題として捉え、多職種と連携し環境を改善することによって、社会から孤立しがちな当事者やその家族が安心できる地域生活を支える実践能力。

カリキュラム・ポリシー

・共通科目では、複雑な健康課題を有する対象の高度な倫理的判断・調整能力、フィジカルアセス

メントの能力、看護実践・教育を行う上での必要な教育的・管理能力を育成するための科目を配置する。
・専門科目では、「療養生活支援看護学分野」、「地域生活支援看護学分野」を教育の柱として設定し、我が国の超高齢社会、及び少子・多死社会に対応できるように編成する。
・「療養生活支援看護学分野」では、人々が病や障がいをもちながらも最期まで安心できる療養生活を支える実践能力を養成するための科目を配置する。
・「地域生活支援看護学分野」では、健康問題を社会的な問題として捉え、環境を改善し、社会から孤立しがちな当事者やその家族が安心できる地域生活を支える実践能力を養成するための科目を配置する。
・「特別研究」では、看護学の理論や研究方法を専門的に学び、個々の研究テーマに添い、一連の研究プロセスを体験し、看護学研究の開発するための基礎的能力を育成するための科目を配置する。

アドミッション・ポリシー

・高い倫理感と豊かな人間性を有し、医療や看護の発展に貢献できる人
・科学的・論理的思考ができ、看護学における疑問や課題の解決に向けて研究することに強い関心をもつ人
・将来、看護の実践の場でリーダーとなれる資質を有し、看護学や看護実践の発展に向けて、活動する意思を有する人

≪総合リハビリテーション学専攻（博士課程）≫

ディプロマ・ポリシー

・医療現場や地域社会生活においても、高い倫理観と高度の専門知識に基づいた実践能力を持ち、新たな課題解決を主体的に取り組み、常に最新の知識や技術を探求しつつ、指導的役割を担うことができる。
・総合リハビリテーション学に関連する科学的根拠に基づいた論理が構築でき、常に新しい知見を真摯に学ぶとともに、自立した研究活動を遂行できる。
・公正な研究を遂行し深い学識と高度な専門的研究能力をもつことによって、多角的かつ総合的に事象を分析でき、独創性、創造性に優れた研究能力を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー

・自らが目指す専門分野において、指導的・中心的役割を果たし臨床・教育・研究に寄与できる高度専門的職業人としての素養を備えるため、総合リハビリテーション学に関する普遍的で高度な専門的知識・技術を修得させる。
・総合リハビリテーション学に関連する先進的な専門知識から、自身の専門領域に近い分野に相互連携を図る新たな知識と技術を深め、自ら高度な研究を進めることのできる実践的能力を養うよう科目を配置する。

・研究遂行のために必要な基本的事項の学修に基づき、論文を作成する過程を通じて批判力、論理性、表現力を培うための優れた専門的な研究能力を修得させる。

アドミッション・ポリシー

・科学的・倫理的な思考に基づいて独創的かつ実践的な研究を遂行することに意欲のある者
・大学、あるいは大学院における教育・研究指導に意欲のある者
・医療現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、自立的な研究を行うことに意欲のある者
・科学的エビデンスを構築し、研究開発を行うことに意欲のある者

3．財務の概要（法人全体）

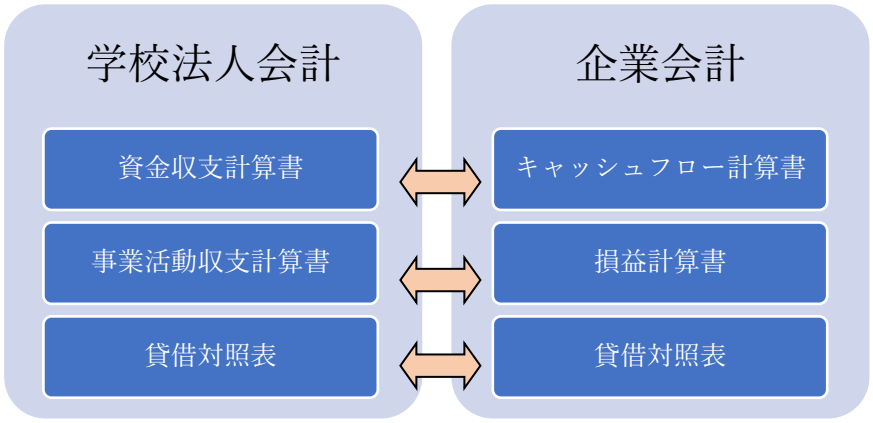
（1）学校法人会計の特徴と企業会計の違い

学校法人会計と企業会計は、その目的の違いから、財務諸表の違いに表れています。

①目的の違い

企業会計は、その営利目的から「損益計算」を重視するものですが、学校法人会計は、有為な人材を育成することを目的とし、その運営が安定かつ継続性保持のために「収益均衡」を目指すものになっています。

②作成書類の違い



③計算書類について

・資金収支計算書

資金収支計算書の目的は、当該会計年度中のすべての収入と支出に係る内容と資金の顛末を明示するため行うこととされています。すべての収入及び支出とは、当該会計年度の諸活動に対応する収支であれば、その実質的支払資金の増減が当該会計年度であるか否かを問わず、当該会計年度の収支に含めてこれを行なうものとしています。また、資金の顛末とは、支払資金の前年度末残高、入金、出金及び年度末の残高を明らかにすることです。学校法人会計では、これら前年度以前、翌年度以後に発生する資金を調整勘定という科目を用いることで、すべての資金の収支を明確にしています。

・事業活動収支計算書

事業活動収支計算書の目的は、当該会計年度中の事業活動費収入と事業活動支出に係る内容を明らかにし、収支の均衡状態など、財政の運営状況を表すこととされています。事業活動収支計算書では、①教育活動収支、②教育活動外収支、③特別収支の 3 つに区分され、収支差額が算出されています。また、同時に企業会計における損益計算書の収支バランスを援用し、学校法人の永続的な運営に関わる重要な指標として活用されています。

・貸借対照表

貸借対照表の目的は、資産、負債、純資産を対照表示し、その財政状態を明らかにすることとされています。資金収支計算書、事業活動収支計算書が事業年度内の収支を表すのに対し、貸借対照表は学校法人設立からの財政状態を示しています。企業会計の貸借対照表と構造は似ていますが、学校　法人会計における貸借対照表では、教育研究活動の水準維持向上のため継続的に保持する資産として基本金が組み込まれています。

（２）経年比較（３か年）

①資金収支計算書

収入の部では、補助金収入および前受金収入が増加したものの、学生生徒等納付金収入および資産売却収入が減少したため、前年度に比べ161億7,800万円の減額となりました。

支出の部でも資産運用支出が減少したことで、合計額が325億8,900万円と前年度に比べ大きく減額しております。

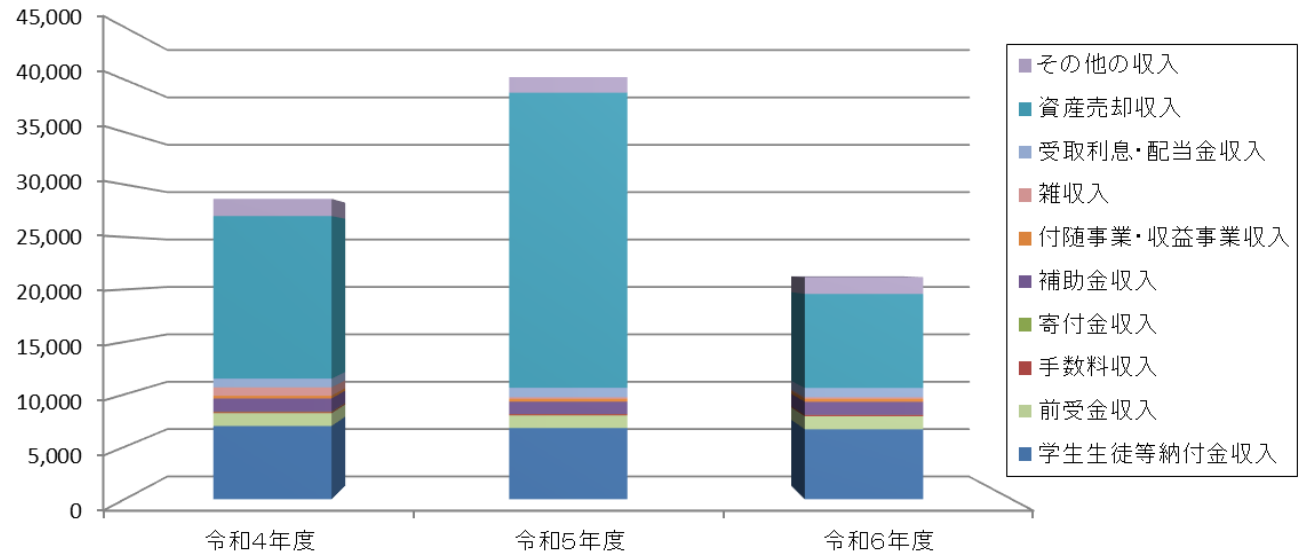
【収入の部】　（単位　百万円）

収入の部（大科目）	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	6,983	6,788	6,667
手数料収入	112	119	118
寄付金収入	41	9	14
補助金収入	1245	1178	1,246
資産売却収入	15,493	28,134	8,957
付随事業・収益事業収入	257	272	294
受取利息・配当金収入	836	892	887
雑収入	801	157	146
前受金収入	1,229	1,208	1,245
その他の収入	1,639	1,486	1,600
資金収入調整勘定	△ 1,968	△ 1,390	△ 1,346
前年度繰越支払資金	6,275	9,914	12,761
収入の部合計	32,943	48,767	32,589

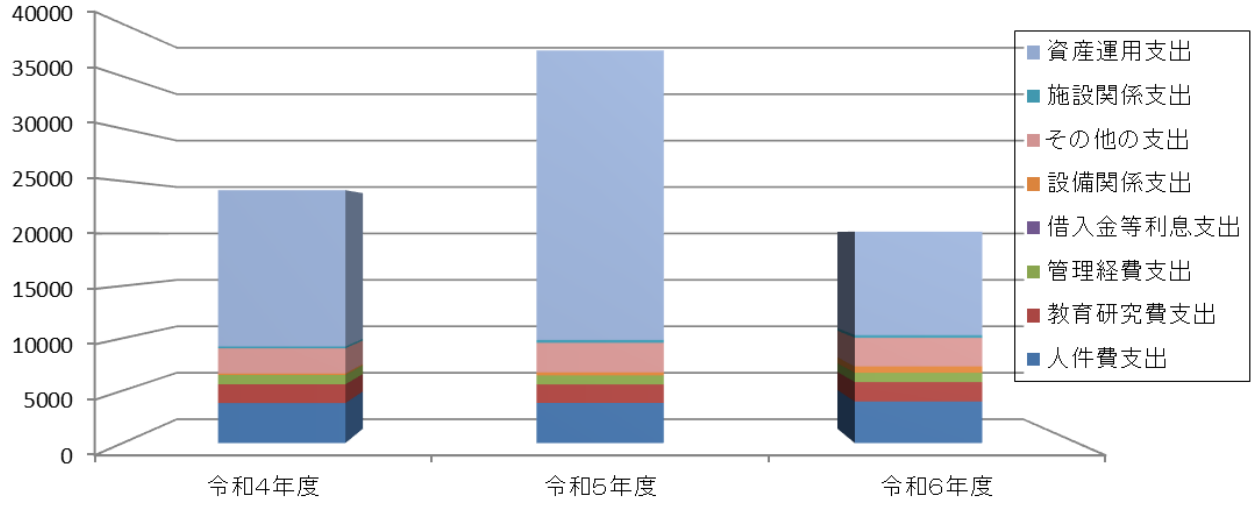
【支出の部】　（単位　百万円）

支出の部（大科目）	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	3,812	3,838	3,964
教育研究費支出	1,793	1,757	1,852
管理経費支出	897	862	892
借入金等利息支出	0	0	0
施設関係支出	176	283	261
設備関係支出	133	286	602
資産運用支出	14,921	27,616	9,866
その他の支出	2,401	2,822	2,735
資金支出調整勘定	△ 1,104	△ 1,458	△ 752
次年度繰越支払資金	9,914	12,761	13,169
支出の部合計	32,943	48,767	32,589

●収入の部　科目別内訳推移



支出の部　科目別内訳推移



②事業活動収支計算書

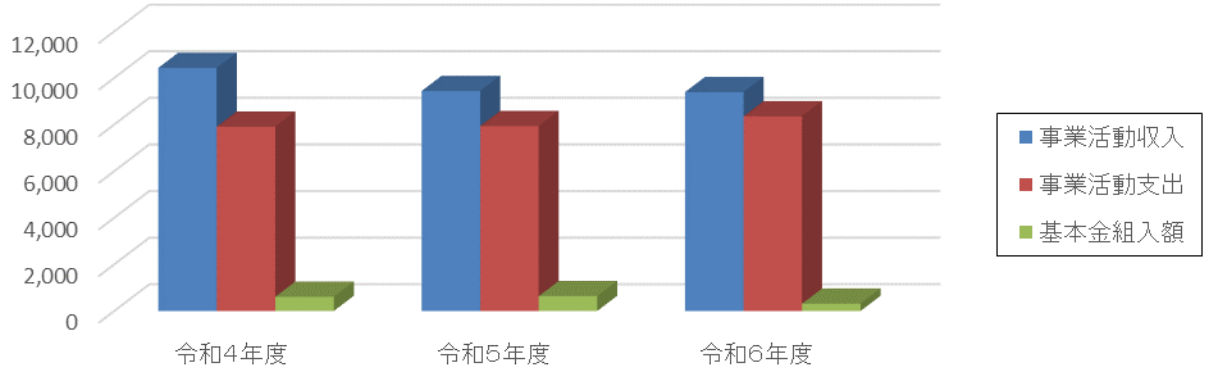
教育活動収支では、前年度に比べ学生生徒等納付金や雑収入の減額に加え、人件費や教育研究経費等の増加により教育活動収支差額が 2 億 5,400 万円の減額となりました。また、教育活動外収支では、受取利息・配当金が前年より減額となったことで、経常収支差額は前年度比 2 億 5,900 万円減額の 13 億 9,600 万円となりました。今後につきましても健全な財政基盤のもと充実した教育研究活動の展開に邁進してまいります。　（単位：百万円）

科目			令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	6,983	6,789	6,667
		手数料	112	119	118
		寄付金	45	13	15
		経常費等補助金	1245	1177	1,243
		付随事業収入	258	271	295
		雑収入	789	156	146
		教育活動収入計	9,432	8,525	8,484
	支出	人件費	3,797	3,857	3,989
		教育研究経費	2,711	2,642	2,661
		管理経費	1,293	1,263	1,325
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	7,801	7,762	7,975
		教育活動収支差額	1,631	763	509
教育活動外収支	収入	受取利息･配当金	835	892	887
		雑収入	0	0	0
		その他教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	835	892	887
	支出	借入金等利息	0	0	0
		管理経費	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
		教育活動外収支差額	835	892	887
経常収支差額			2,466	1,655	1,396
特別収支	収入	資産売却差額	147	15	5
		その他の特別収入	14	4	12
		特別収入計	161	19	17
	支出	資産処分差額	98	162	376
		その他の特別支出	10	7	0
		特別支出計	108	169	376
		特別収支差額	53	△ 150	△ 359
基本金組入前当年度収支差額			2,519	1,506	1,037
基本金組入額合計			△ 612	△ 638	△ 314
当年度収支差額			1,907	868	723
前年度繰越収支差額			△ 3,662	△ 1,417	△ 548
基本金取崩額			338	1	0
翌年度繰越収支差額			△ 1,417	△ 548	175
（参考）					
事業活動収入計			10,428	9,436	9,388
事業活動支出計			7,909	7,931	8,351

比率	計算式	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費比率	人　件　費 / ※1 経 常 収 入	37.0%	41.0%	42.6%
人件費依存率	人　件　費 / 学生生徒等納付金	54.4%	56.8%	59.8%
教育研究費比率	教育研究費 / ※1 経 常 収 入	26.4%	28.1%	28.4%
管理経費比率	※1 管理経費 / 経常収入	12.6%	13.4%	14.1%
経常収支差額比率 ※2	経常収支差額 / ※1 経常収入	24.0%	17.6%	14.9%
		受取利息除外：17.29%	8.95%	6.00%

※1 経常収入‥‥「教育活動収入計」、「教育活動外収入計」の合計　　※2 目標値‥‥8%

●事業活動収支　財務比率推移



③貸借対照表

令和 7 年 3 月 31 日現在における資産、負債及び純資産を前年度と比較すると、資産の部合計は、前年度より 4 億 2,000 万円増加し、767 億 700 万円となりました。要因としては、有価証券等の固定資産の増加に加え、現預金の流動資産が増加したためです。

負債の部合計については、長期未払金が増加しましたものの、未払金の減少により前年度より 6 億 1,700 万円減額しております。

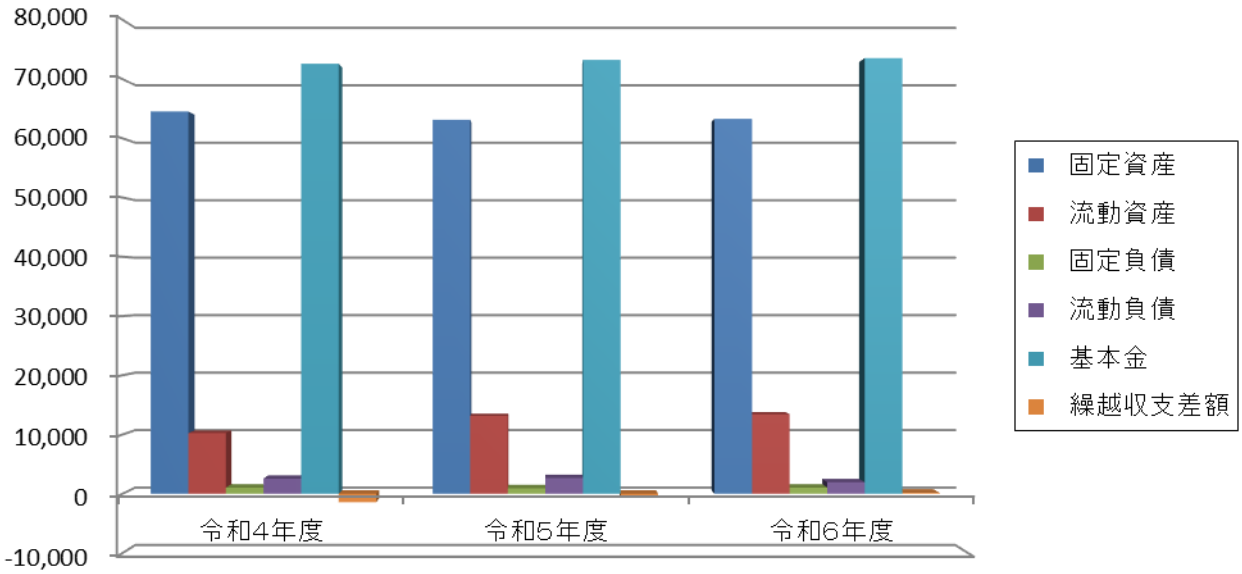
その結果、純資産の部合計は、前年度より 10 億 3,500 万円増加し、737 億 2,100 万円となりました。

（単位：百万円）

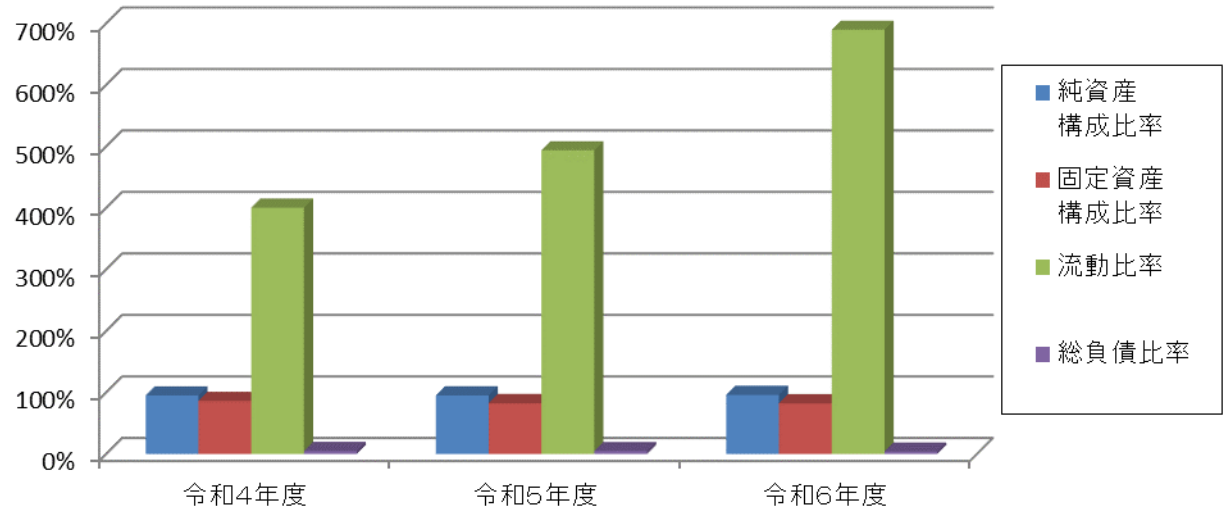
科目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
資産の部	74,784	76,287	76,707
固定資産	64,526	63,135	63,289
流動資産	10,258	13,152	13,418
負債の部	3,604	3,601	2,984
固定負債	1,043	937	1,039
流動負債	2,561	2,664	1,945
純資産の部	71,180	72,686	73,721
基本金	72,597	73,234	73,547
繰越収支差額	△ 1,417	△ 548	174
負債及び純資産の部合計	74,784	76,287	76,705

比率	計算式	令和4年度	令和5年度	令和6年度
純資産構成比率	純　資　産 / （負債+純資産）	95.2%	95.3%	96.1%
固定資産構成比率	固 定 資 産 / 総　資　産	86.3%	82.8%	82.5%
流動比率	流 動 資 産 / 流 動 負 債	400.5%	493.7%	689.9%
総負債比率	総　負　債 / 総　資　産	4.8%	4.7%	3.9%

●**貸借対照表　推移**



●**貸借対照表関係比率　推移**



（３）経営上の成果と課題、今後の方針

法人全体については、大学において安定的な学生確保が図られていることから令和６年度は、経常収支差額が 13 億 9,600 万円と健全な財務基盤が確保されています。

一方、部門別にみると、帝京第五高等学校においては入学者数が年々、減少傾向にあり、今後は生徒募集活動の強化や人件費削減などに取り組んでいく必要があります。

また、専門学校においても入学者数が伸び悩んでおり、収支改善の見直しが必要です。

今後についても、より充実した教育環境を提供できるよう、令和２年５月に策定した中期財務計画の実現（経常費差額比率８％の実現）に向けて、安定した財務基盤の確立に努めることとしております。